

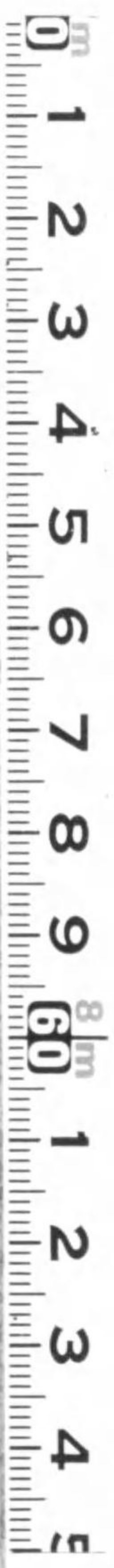
特233

887

# 隱語辭典

新開語辭典附錄

東京 栗田書店 發行



# 始





特 233  
88<sup>1</sup>

# 隱語辭典

新 聞 語 辭 典 附 錄

東 京 栗 田 書 店 發 行





內  
容

僧	犯	花	的	俗	不	學
……	……	……	……	……	……	……
僧	犯	花	的	俗	不	學
侶	罪	柳	的	屋、	良	生
語	語	界	緣日	商人	少年	語
語	語	語	語	語	語	語





ア

あいかた (相方 花) 遊客の相手になる娼妓のことをいふ。

あいぼれ (相惚 花) 魚の刺身のことをいふ。身を刺すといふのが縁起が悪いといふ所から。

あおだけのてすり (青竹の手摺 俗) 若い癖に世事に悪だててゐる者や又すれつからしの者等をいふ。

あおち (的) 風のこと。例「ちえつ、昨日はスイバレ(降雨)で今日はまたアオチか」など。

あおにさい (青二才 俗) 年も若く物事にも未熟の男子のことをいふ。

あおのれん (青暖簾 花) 部屋をもつてゐる娼妓のこと。又局女郎ともいふ。

あか (赤 的) 火事のことをいふ。

あかいしんによ (赤い信女 俗) 未亡人のことをいふ。

あかいぬまけしかける (犯) 放火のことをいふ。赤はマッチのこと。

アイーアゲ

あかしばな (明し花 花) 夜から翌朝まで通して藝者や娼妓の玉代をつけることをいふ。

あかすじ (赤筋 犯) 裁判所の検事のこと。

あかだんご (赤團子 俗) お灸のことをいふ。

あかなべ (赤鍋 俗) 色情を好む多淫な女のことをいふ。

あかねこ (赤猫 的) 火事のことをいふ。

あかびら (犯) 刑務所で着る赭色の獄衣のことをいふ。ピラは着物のこと。

あかまへだれ (赤前垂 犯) 鹽鮭のことをいふ。一般に鮭には赤紙の札を附ける習慣がある故。

あがりばな (上り花 花) 花柳界や料理店等でお茶のことをいふ。又「でばな、おぶら」などともいふ。

あかるいまち (明い街 花) 遊廓のことをいふ。夜も猶晝の様に華かで明るい意味からいふのである。又不夜城ともいふ。

あき (犯) 空巢視のことをいふ。

あげきり (揚切 花) お客が藝者や娼妓を獨占して他の貰ひに應じないことをいふ。

あげすて (揚捨 花) 藝者や娼妓の花代だけを支



拂つてお客が行かないことをいふ。

あげや (揚屋 花) 貸座敷即ち女郎屋のこと。

あさめしまへ (朝飯前 俗) 極めて容易く爲し遂げることの出来る仕事のことをいふ。

あさりふみ (犯) 店頭に人影のないことをいふ。

あし (足 花) 短かくといふ意。藝人仲間で「あし」で頼むといへば短くやつて呉れとの意。

あしがつく (足が付く 犯) 犯跡が露見するといふことである。

あじろのうお (網代の魚 俗) 監督が厳しくつて我儘の振舞や自由が利かない若い女のことをいふ。

あた (俗) 當り前といふことの略語。

あたいじん (犯) 詐欺賭博仲間、「注意深くつてなか／＼欺し難い」人物のことをいふ。

あたらしいきせる (新しい煙管 俗) つまらぬといふ意。新しい煙管は通りがよくつまらないといふ洒落から来た語。

あたりばこ (當り箱 花) 硯箱のことをいふ。

あたりばち (當り鉢 花) 摺鉢のことをいふ。あたりばちは摺りこぎのこと。

あたりめ (當り女 花) 鯛のことをいふ。

あちがある (味が有る 俗) 趣味又は価値のあることをいふ。

あつげしよう (厚化粧 犯) 雪景色の事をいふ。

あつさん (犯) 婦人のことをいふ。

あつためる (犯) 放火のことをいふ。

あつたもの (的) 阿呆者のことをいふ。

あつびら (厚びら 犯) 男女の袷の着物のこと。

あて (犯) 掏摸の常習者がいつも所持してゐる小形の刀物の類をいふ。

アナウンサ (學) 人の事を無暗に告げ口する者のことをいふ。

あなづたい (穴傳ひ 犯) 階上、引窓口、床下などより忍び入る泥棒のことをいふ。

あなほりだいく (穴掘大工 俗) 仕事の出来ない大工のことをいふ。やつと穴を掘る位がせきの山の腕前の大工のこと。

あひる (家鴨 俗) 淫賣娘のことをいふ。

あぶら (油 犯) 戸障子を明けて忍び入らうとする時音を消す爲に敷居や戸車へ小便をする事をいふ。

あひる (家鴨 俗) 淫賣娘のことをいふ。

け横領して外物は投棄することをいふ。

ありのすさびぐみ (俗) 氣紛れ者のことをいふ。

ありのみ (有の實 花) 果實の梨のことをいふ。

ありんすこく (花) 吉原の遊廓のことをいふ。

ありんすことば (花) 娼妓の使ふ言葉をいふ。

あわび (鮑 花) 片思ひのことをいふ。

あんご (安居 犯) 外へ出でず家の中に隠れてゐることをいふ。

あんざん (安産 犯) 容易に忍び入ることの出来る人家や倉庫のことをいふ。

あんず (俗) 温泉宿や旅館で婦人のことをいふ。

あんどんべや (行燈部屋 花) 遊廓で遊興費の不

足した客を金の出来る迄入れておく部屋の事をいふ。

あんぼん (花) 男に甘い女のことをいふ。

あんま (按摩 犯) 詐欺賭博で仲間の事をいふ。

あんまさん (按摩さん 犯) 専ら深夜に働く泥棒

や又は夜行列車に乗り込む掏摸のことをいふ。

イ

いうぼう (有望 俗) 未婚者のことをいふ。未だ

あぶらうり (油賣 犯) 怠け者や又何の仕事もたず終日勝負事ばかりに耽つてゐる者の事をいふ。  
あぶらかす (油粕 犯) 夫婦者又は同伴者の事。  
あぶらむし (油虫 俗) 他人に喰ひいつて寄生してゐる人のことをいふ。  
あぶらさうる (油を賣る 俗) 主人や監督者の目を盗んでは仕事を怠けることをいふ。  
あぶれ (犯) 儲け仕事のないことをいふ。  
あまがへる (雨蛙 花) 心の變り易い人のことをいふ。雨蛙はよく變色するからである。  
あまくり (甘栗 俗) 妻君に甘い男の事をいふ。  
あましく (甜食 俗) いつでも二人くつつ着き合つてゐる仲のよいことをいふ。  
あみだきよう (阿彌陀經 犯) 蕙蕪の事をいふ。  
アメリカカゴ (亞米利加後家 俗) 船員の夫が乗船中淋しく留守を守つてゐる妻君のことをいふ。  
あらばち (新鉢 犯) まだ一度も盗難にかゝつたことのない人家や倉庫などのことをいふ。  
あらひ (洗魚 花) 生娘のことをいふ。  
あらふ (洗ふ 犯) 道路で落し物を拾つて中味だ



結婚をする望みのあるといふ意味から来た語。

いかけ(鑄掛 俗) 夫婦が連れだつて歩くこと。

いかけやのてんびんぼう(鑄掛屋の天秤棒 俗)

出しやばり者又は出過ぎた行ひのことをいふ。

いかもの(俗) 怪しげな物又はにせ物のこと。

いかものぐい(俗) 珍妙な變つた女に關係を好む多情な男のことをいふ。

いきもどり(行き戻り 犯) 鋸のことをいふ。

いけみぐさ(池見草 俗) 容貌のいゝ浮氣女のことをいふ。蓮葉者といふ所から蓮の異名池見草といつたのである。

いさましい(俗) 不良性を帯びた女子のことをいふ。元氣がよすぎて物凄いといふ意味。

いざりのきんたま(蹙の翠丸 俗) 人ずれてゐること、又はすれつからしといふことである。

いさん(爲山 僧) 僧侶仲間て牛肉の事をいふ。

いしぢさう(石地藏 犯) 沈黙者又は啞のことをいふ。石地藏は何にも語らず口が堅いといふ。

いしにきう(石に灸 俗) 何等の效力もないことをいふ。

いしにはな(石に花 俗) 断じて有り得べからざることをいふ。煎豆に花と同じ。

いしにはり(石に針 俗) 一向に痛痒を感じないことをいふ。石に灸と同じ。

いしべきんきち(石部金吉 俗) 品行方正、堅人などの人のことをいふ。

いしやのしつこし(石屋の引越 俗) 相思相愛の仲をいふ。思ひく(重い)といふ洒落語。

いしわり(石割 犯) 強盜犯のことをいふ。

いすけ(伊助 犯) 事情を知つて盗品を買ふ故買者のことを仲間の者が使ふ語。

いせまいり(伊勢詣 俗) 相思相愛の男女が進退谷まつて駆落することをいふ。

いせや(伊勢屋 俗) 吝嗇家のことをいふ。

いた(犯) 酒のこと。醸酒の本場伊丹の略。

いたち(犯) はしつこい刑事のこと。

いたちのみち(馳の道 花) 始終通つて来た情人がびつたりと来なくなつたことをいふ。

いたのまかせぎ(板の間稼ぎ 犯) 湯屋で入浴者の金品を盗む小泥棒のことをいふ。

いちげん(一現 花) 遊廓に初めて来た、初會客のことをいふ。

いちまいもの(一枚者 犯) 單獨で強劫盜を働く犯人のことをいふ。

いちやづま(一夜妻 俗) 娼妓のことをいふ。一夜だけ妻の代理をつとめるといふ所から。

いちろくぎんこう(一六銀行 俗) 質屋のことをいふ。一と六で七(質)となるから。

いつけつ(一穴 俗) 鶏姦のこと。男色と同じ。

いつづけ(居續け 俗) 遊廓などで何日も何日も日を重ねて遊ぶことをいふ。

いつほん(一本 花) 半玉から一人前の藝者になつたもののことをいふ。

いつものところ(俗) 芝居の花道のことをいふ。

いどばたかいぎ(井戸端會議 俗) 下層社會の女が一つの井戸の邊りに集つて無駄話をする事をいふ。

いなおり(居直り 犯) 窃盜犯が家人に發見されると急に兇器をかざして強盜に變ずることをいふ。

いぬ(俗) 問者、廻し者、刑事などの事をいふ。

いぬしし(猪 俗) 拾圓札のこと。舊の拾圓札に

は猪の模様があつたのでかくいふやうになつた。

いぬとさる(犬と猿 俗) 仲の悪い間柄をいふ。

いぬもくわぬ(犬も喰はぬ 俗) 夫婦喧嘩のことをいふ。又洒落てワン喰はんともいふ。

いのすけ(伊之助 俗) 果物の柿のこと。殊に樽柿をいふ。

いのちのせんたく(命の洗濯 俗) 平生の勞を慰めるための氣晴しのことをいふ。

いまだやき(今戸焼 俗) お面相の醜い女のこと。

いもすけ(芋助 花) 歌も出来ず三味線も引けない藝者のことをいふ。

いるす(居留守 俗) 留守を使ふことで、眞實は家に居ても都合が悪いので留守だと詐ることをいふ。

いろあげ(色揚 犯) 刑務所の看守のこと。

いろめがね(色眼鏡 俗) 偏見を以て物事を見ることをいふ。

いろもの(色物 俗) 寄席のことをいふ。

いわ(岩 犯) すり仲間て懷中物のことをいふ。

いんな(院名 俗) 寺のことをいふ。寺には必ず院といふ名がある故。



ウ

うきかわたけ (浮川竹 花) 遊廓のことをいふ。  
 浮川竹に身を沈めるといふのは娼妓になること。  
 うきす (浮洲 犯) 船内で働く拘摸の事をいふ。  
 うきすば (浮巢場 犯) 渡船場のことをいふ。  
 うぐいす (鶯) 花柳界ではすべての青物、野菜のことをいふ。犯罪語では強姦や時計のことをいふ。  
 うさぎ (兎 犯) 田野の物を窃盗する者のことをいふ。兎は田畑を荒す所から。  
 うじ (宇治 花) お茶のことをいふ。茶の名産地の名から来た語。  
 うしのくそ (牛の糞 俗) 表面は剛直でも實は軟弱にして女に油断のならない男のことをいふ。  
 うしのつの (牛の角 俗) 僧侶仲間で鯉節のことをいふ。形から来た語。  
 うすげしよう (薄化粧 犯) 霜の降りた景色のことをいふ。厚化粧は雪景色のこと。  
 うすしき (白挽 犯) 雷鳴のことをいふ。白を挽く音が雷鳴と同じである所から。

うちこみ (打込み 不) 縁日や活動等で若い女の袂に手紙や名刺などを入れることをいふ。  
 うちまたこうやく (内股膏藥 俗) 自分の都合のよいやうに双方に味方をする者のことをいふ。  
 うなぎ (鰻 犯) 細いひものことをいふ。形から来た言葉。  
 うのはな (卵の花 俗) 豆腐のからのこと。  
 うま (馬 花) 遊廓などで勘定の足りない時、不足額を受取るために客と一緒に附いて行く人のことをいふ。  
 うまづら (馬面 俗) 長い顔の人のことをいふ。  
 うまのあし (馬の脚 俗) 下級優者の事をいふ。  
 うまのしようべん (馬の小便 俗) 薄いお茶又は出がらしのお茶のことをいふ。  
 うまのほね (馬の骨 俗) 血統も素性も知れない者のことをいふ。又牛の骨とも云ふ。  
 うみせん (海千 俗) 海山千年の略で人づれのした者のことをいふ。  
 うゆ (犯) 賭博などをやる時外で刑事や巡査の來るのを見張りして居る者のことをいふ。

うら (裏 花) 遊里で二度目に來た客の事をいふ。初めては初會、二度目は裏、三度目は馴染といふ。

うらてん (裏天 俗) 獅子鼻のことをいふ。  
 うりぎよく (賣玉 花) 淫賣婦のことをいふ。  
 うりこむ (賣込 俗) 刑事や警察署へ他人の犯罪事實を密告することをいふ。  
 うれのこり (賣れ残り 俗) 結婚期を逸した婦人のことをいふ。  
 うろうろ (俗) 親方が人員を描へる爲に實際には使用してゐない人夫を名義上雇ふことをいふ。  
 うんしゆうのだんな (雲州の檀那 花) 金のない客のことをいふ。雲州の種なし蜜柑から来た語。  
 うんてんし (運轉士 犯) 汽車や電車や汽船の中を専門に働く拘摸のことをいふ。  
 うんと (的) 無代價のことをいふ。ロハと同じ。

エ(エ)

えいせいびじん (衛生美人 俗) 顔はお粗末だが體は至て健康でがつちりして居る女性のことをいふ。  
 えちせん (越前 俗) 包莖のことをいふ。

エックス (X 俗) 疑問といふ意味。  
 えてきち (得手吉 俗) 男根のことをいふ。單に「えて」ともいふ。

えびたい (蝦蟇 俗) 僅かばかりの利を人に與へて多くの利を得ようとする手段のことをいふ。  
 エム (M 學) 主に學生間で金錢のことをいふ。  
 えりがえ (襟替 花) 半玉が一本になることをいふ。一本になると赤い半襟を改める所から。  
 エル (學) 男女學生間で戀人や戀文のことをいふ。  
 えんぎしき (延喜式 俗) 規定や形式ばかりを尊重して物事を行ふことをいふ。  
 えんぎだな (縁起棚 俗) 主に商人の家で稻荷をまつてある神揃のことをいふ。  
 えんこう (犯) 淺草公園のことをいふ。公園を遊さに讀んだもの。  
 えんこうぼう (猿猴坊 俗) 月經のことをいふ。  
 えんこうをだす (犯) 拘摸を始めることをいふ。  
 えんじろう (艶次郎 花) 花柳界の事情は裏表ともよく精通してゐる男のことをいふ。  
 えんすけ (圓助 俗) 一圓札のことをいふ。



えんた (煙太 俗) 煙草のことをいふ。  
 えんぶくか (艶幅家 俗) 多くの異性からモーションをかけられ、すてきにもてる人のことをいふ。  
 えんま (閻魔 犯) 釘抜のことをいふ。門や戸の錠前などを破壊するのに用ゐる。  
 えんまちよう (閻魔帳 學) 學生間で教師の持つてゐる採點帳のことをいふ。

オ(ヲ)

おあいそう (お愛想 花) 勘定のことをいふ。  
 おいそれ (犯) 拘摸が犯罪に使用する小形な銳利の刃物のことをいふ。  
 おいらん (花魁 犯) 土藏や倉庫のことをいふ。  
 おうじめ (大占 的) 大勢の客を集めて事まことしやかに品物の性質や效能などを説明してその品物を賣りつける露店商人のことをいふ。  
 おうびけ (大引 花) 吉原遊廓で午前二時のこといふ。  
 おうぶね (大船 犯) 金額十圓のことをいふ。  
 おうべや (大部屋 演) 幹部以下の俳優のこといふ。

おえん (お猿 俗) 月經のことをいふ。  
 おかいちよう (お開帳 俗) 女の陰部のこと。  
 おかちん (俗) いつも餅のやうにべたくとしつついて居る仲のよい若夫婦のことをいふ。  
 おかべ (お壁 俗) 豆腐のことをいふ。  
 おかぼれ (岡惚 花) 別に情事關係はないが、ただ好きで心ひそかに惚れてゐることをいふ。  
 おかま (お釜 俗) 臀部のこと。轉じて男色のことをいふ。  
 おかみ (女將 花) 待合や料理屋の女主人公のことをいふ。  
 おかめはちもく (岡目八目 俗) 當事者よりも傍觀者の方がよく事柄が解ることをいふ。  
 おかやき (岡焼 花) 當事者同志でない他の人達が嫉妬することをいふ。  
 おかる (お輕 犯) かんざしのことをいふ。芝居のお輕が袴をさしてゐるところから來た語。  
 おかるば (お輕場 犯) 二階のことをいふ。  
 おきや (置屋 花) 藝娼妓を置いて居る家のこと。  
 おきやくさん (お客さん) 月經のことをいふ。

おくら (お藏 演) 興業を中止することをいふ。  
 おくり (お送 犯) 検事局へ送りの略。  
 おけら (俗) 懷中無一物のことをいふ。  
 おこぶる (花) 女が自分の容色を自負すること。又貴婦人を真似る下賤の女のことをいふ。  
 おざしき (御座敷 花) 藝者が客に聘ばれることをお座敷がかゝるといふ。  
 おし (啞 犯) 萬引のことをいふ。啞のやうにだまつて盗むからである。  
 おしどり (鴛鴦 俗) いつも一緒に連れ立つて居る仲のよい夫婦などのことをいふ。  
 おしま (お島 花) 米の飯のことをいふ。  
 おしもやしき (お下屋敷 花) 便所のことを上品にいつたのである。お化粧室ともいふ。  
 おしやか (俗) お釋伽(佛)になることから轉じて懷中が無一物(裸)になることをいふ。  
 おしよく (お職 花) 遊廓で同輩中の頭に立つ娼妓のことをいふ。  
 おそなへ (お供へ 俗) 宿屋などで夫婦者又は女連れのお客のことをいふ。

おだいしさん (お大師さん 犯) 賭博のこと。  
 おたぼこぼん (お煙草盆 俗) 出過ぎた人のことをいふ。  
 おだわら (小田原 俗) 提燈のことをいふ。  
 おだわらかいぎ (小田原會議 俗) 幾度會議を開いてもいつも何等の纏りも見せず、少しも決定しないことをいふ。  
 おちやわん (お茶碗 花) あるべき所に毛のない女のことをいふ。  
 おちやまにごす (お茶を濁す 俗) 一時のがれに其場をつくらつてごまかすことをいふ。  
 おちやまひく (お茶をひく 花) 藝者や娼妓が客がなく賣れ残つて遊んでゐることをいふ。  
 おちようしもの (お調子者 俗) 人のおだてにすぐ乗つて浮れる人のことをいふ。  
 おつかがせ (的) 眞似をすること。見習のこと。  
 おてなし (お手無 犯) 月經時の婦人のこと。  
 おてもと (お手許 花) 箸のことをいふ。  
 おてんき (お天氣 俗) その日／＼で氣持が變る人のことをいふ。



おとまり (お泊 俗) 賣残つた一夜越の魚のこと。  
 おどりっこ (お踊り子 俗) 鯖のことをいふ。鯖の動く形容から来た語。  
 おなて (お撫で 俗) 下女を兼ねた妾のことをいふ。「おさすり」ともいふ。  
 おにもつ (お荷物 俗) 女が嫁入りする時既に不義の胤を宿して居ることをいふ。  
 おのなきつね (尾の無い狐 花) 男を迷はすところから藝者や娼妓の異稱としていふ。  
 おはきもの (お穿物 花) 不爲になるお客を門前で拒絶することをいふ。  
 おばけ (お化 縁) 的屋仲間で九星判断の本を賣る者のことをいふ。  
 おはこ (十八番 花) 自分の最も得意とする歌とか踊りとか其他才能のことをいふ。  
 おはめ (花) おしやべり女のことをいふ。  
 おひけ (お引け 花) 遊里にて座敷がすんで部屋に戻ることをいふ。  
 おひち (お七 犯) 放火のことをいふ。  
 おひろめ (お披露 花) 藝者が開業するとき名を

廣めるためにする披露のことをいふ。  
 おぼこ (花) 未だ異性を知らないうぶな娘の事。  
 おみかん (お蜜柑 俗) 一家團樂のことをいふ。蜜柑のやうに皆なよく喰付いてゐるからである。  
 おみやげつき (お土産付 俗) 不義の子を宿して居る嫁のことをいふ。  
 おもひもの (花) 主として妾のことであるが、又殊に可愛がつてゐる女のことをいふ。  
 おやて (親出 花) 素人娘が親の家を出て娼妓になることをいふ。  
 おやゆび (親指 花) 主人又は檀那のことをいふ。  
 おれくち (折れ口 俗) 葬式のことをいふ。  
 おんぼう (隠坊 俗) 火葬場で死體を焼く人夫のこと、又花柳病専門の醫者のことをいふ。  
 おんま (お馬 俗) 月經帯のことをいふ。

力

かいかぶる (買被る 俗) つまらぬ人間を馬鹿に信用し過ぎることをいふ。  
 かいぐり (犯) 列車の棚にある鞆や風呂敷包みを

古新聞などを入れたものに拘り替へる遣方をいふ。  
 がいこうか (外交家 學) 女學生仲間て多くの男學生の友達を持つてゐる者のことをいふ。  
 がいしや (害者 犯) 被害者のことをいふ。  
 かいぼう (解剖 學) 大勢の者が仲間の一人を素裸にして喜ぶことをいふ。  
 かいめん (會面 犯) 面會を逆にいつた語。  
 かいもの (買物 犯) 萬引に行くことをいふ。  
 かう (行 犯) 銀行の略。  
 かえだま (替玉 俗) 本人でない他の人を身代りにつかふことをいふ。  
 かえりびな (歸雛 俗) 離縁されて里方に歸つて來てゐる若い女のことをいふ。  
 かえる (蛙 犯) 暮口のことをいふ。  
 かゝあてんか (驛天下 俗) 妻君の権力が夫より強きをいふ。驛且那ともいふ。  
 かゞみえ (鏡繪 花) 春畫のことをいふ。  
 かくざとう (角砂糖 俗) 子供に甘い親のこと。  
 かくそで (角袖 犯) 私服の刑事巡査のこと。

かくべい (角兵衛 俗) 利益が倍になる事をいふ。  
 がくやおち (樂屋落 俗) 獨り合點をして他人には通じないことをいふ。落語が終つて藝人が樂屋へ入つてからやつと落が解る所から。  
 かがらや (神樂屋 犯) 劇場や寄席等の事をいふ。  
 かくれ (隠れ 犯) 夕暮頃のことをいふ。  
 かげま (陰間 花) 男色を賣る美少年のこと。  
 かがのとり (籠鳥 花) 娼妓のことをいふ。一般にも外出の自由にならない者のことをいふ。  
 がさがいる (犯) 荷物などを取調べられること。  
 かさききる (笠に着る 俗) 主人や地位などの威光を振り廻すことをいふ。  
 がしい (的) 貧乏で金に困つてゐることをいふ。  
 かしざしき (貸座敷 花) 遊女屋、妓樓のこと。  
 かじとろ (火事泥 俗) 火事場泥棒のやうに他人の家のゴタ／＼中につけこんで何か得をとらうとすることをいふ。  
 かしわもち (柏餅 俗) 一枚の蒲團を二つに折つてその中にくるまつて寝ることをいふ。  
 かすがい (錠 俗) 子供のことをいふ。子供は夫



婦の鏡などといふ。

がせ(的) 嘘のこと。「がせつくな」などといふ。  
かせがはやい(風が早い 犯) 家族に手剛い者が居るといふこと。

がせびり(的) 賣春婦のことをいふ。

かせをくらふ(風を喰ふ 犯) 犯人が悪事露見に先ちて逃げ去ることをいふ。

かたいれ(肩入れ 花) 主として藝人などをひいきにして惚れこむことをいふ。

かたぞう(堅造 俗) 品行の堅い眞面目一方の人のことをいふ。

かたておち(片手落 俗) 不公平な處置を下し一方のみを成敗することをいふ。

かつ(喝 犯) 恐喝の略。

かつぎや(擔屋 俗) 迷信家が何事につけても縁起をかつぐことをいふ、御幣かつぎのこと。

かなくぎりゆう(金釘流 俗) 拙な文字のことをいふ。金釘をつらねたやうな筆跡だといふ。

かなづち(金槌 俗) 水泳の出来ない者のこと。

かなぼうしき(金棒式 俗) 人の噂や世間の噂な

どを殊更らと振れ廻り歩く事、又その人の事をいふ。

かねす(鐘巢 犯) 寺院のことをいふ。  
かねたゞき(鐘叩き 俗) 僧侶のことをいふ。

かはす(蛙 犯) 蕪口又は金時計のことをいふ。  
かはんしようにん(靴商人 俗) まやかし物を靴の中に入れて商つて歩く悪商人のことをいふ。

かばんや(靴屋 花) 無免許の齒醫者のことをいふ。靴の中に諸道具を入れて廻つて歩く所から。

かぶと(兜 俗) 酒屋の店先に立つて冷酒を一すコブでひつかけられることをいふ。

かぶとをぬぐ(兜を脱ぐ 俗) 相手の人に屈服することをいふ。

かほさつ(歌菩薩 僧) 藝者のことをいふ。

かみなりばどあ(雷婆 俗) 口喧しい老婦のことをいふ。雷りの様に嗷鳴り散らすからである。

かみばな(紙花 花) お客が直接に藝者に手渡すチップのことをいふ。

かめのこ(龜の子 俗) 終日起きずに蒲團の中にもぐり込んで居ることをいふ。龜の子正月などといふ。

がめる(犯) 他人の金銭や品物を盗むこと。

かも(鴨 犯) すべて被害者のことをいふ。むくどりに同じ。

かよい(通ひ 花) 自前の藝者のこと。

からおんな(空女 俗) 不妊症の女のことをいふ。

からす(烏 的) 炭のことをいふ。

からす(烏 犯) 黒靴のことをいふ。

からすがね(烏金的) 翌朝までには返済する契約をして借金すること。又その金のことをいふ。

からすのばけもの(烏の化物 俗) べこく頭ばかりさげ人のことをいふ。米搗きバツタに同じ。

からみ(犯) 共犯關係者のことをいふ。

からめて(搦手 俗) すべて裏面のことをいふ。

からやくそく(空約束 花) 馴染の藝者が紋日や正月などに自由に休めるやうに玉代や其他の費用を出してやることをいふ。

かりがりもうじや(我利々々亡者 俗) 利益を貪るのに目の無い人のことをいふ。  
かりこみ(刈り込み 犯) 浮浪人などを一齊に檢挙することをいふ。  
がる(俗) 損失がついて遂に破綻する事をいふ。

かわごえちやぶ(川越チャブ 俗) 薩摩芋のこと。  
かわらけ(俗) 男女ともあるべき所に毛のない者のことをいふ。

かわらもの(河原者 俗) 歌舞伎役者のこと。  
かかんしき(観艦式 花) 遊廓で娼妓の診察日のことをいふ。

がんすい(眼水 犯) 涙のことをいふ。

かんとん(邯鄲 犯) 枕のことをいふ。

かんだんけい(寒暖計 俗) 氣の變り易い人のことをいふ。

かんづめがいしや(鐘詰藝者 俗) 蓄音器のことをいふ。

かんぬし(神主 俗) 葱のことをいふ。

かんのん(觀音 花) 女の陰部のことをいふ。

かんばち(勘八 俗) 嘘つき者、横着者のこと。

かんばん(看板 俗) 飲食店や料理屋で店を閉じる時間のことをいふ。

かんべい(勘平 犯) 双物のことをいふ。  
かんどし(環辰し 犯) すりの仲間で懐中時計の茄子環を外して取ることをいふ。



かんらく (陥落 花) 口説き落されること。  
かんわけ (犯) 自分の犯罪を知つてゐる人に口止  
をする爲に金銭を與へることをいふ。

キ

きうたらう (牛太郎 花) 遊廓の妓夫や客引男の  
ことをいふ。  
きしぼじん (鬼子母神 俗) 子供の多い妻君のこ  
とをいふ。  
きじるし (キ印 俗) 氣狂のことをいふ。  
きす (犯・的) 酒又は酒好のことをいふ。「彼の  
家の主人はきすだよ」など。  
きすぐれ (犯) 酒を飲み過ぎて泥酔する事をいふ。  
きずもの (傷物 俗) 處女を失つてゐる女のこと。  
きせいちゆう (寄生虫 俗) 獨立心がなく常に他  
人の力に依頼して生活をする人のことをいふ。  
きせるのり (煙管乗 犯) 汽車に乗る時前後だけ  
の切符を持つて中間を無賃乗車することをいふ。  
さたやま (北山 俗) 空腹を感じることをいふ。  
きちがいみず (狂人水 俗) 酒のことをいふ。人

を酔はせて狂人のやうにする水といふ所から。  
きつねのよめいり (狐の嫁入 俗) 日が照りなが  
ら雨の降ることをいふ。  
きてはなをかむ (木で鼻をかむ 俗) 無愛想な挨拶  
のことをいふ。  
きにたけ (木に竹 俗) 前後の聯絡のつかぬこと  
又は筋道の通らぬことをいふ。  
きふ (妓夫 花) 遊女屋の客引のこと。又牛太郎  
ともいふ。  
きぶつ (木佛 俗) 少しも情熱のない人のことを  
いふ。木佛金佛石ぼとけの略。  
きむすめ (生娘 俗) 未だ色氣づかない處女をい  
ふ。犯罪語では嚴重に戸締ある人家や倉庫などのこと  
をいふ。  
きもん (鬼門 俗) 自分に不都合な方向や人のこ  
とをいふ。  
きやくいろ (客色 花) 藝者が惚れてゐる客のこ  
とをいふ。  
きよくがない (曲が無い 俗) 愛情もなければ面  
白味もないことをいふ。

きよくろくむすめ (曲祿娘 俗) 坊主と情を通じ  
る娘のことをいふ。

きりこみ (切込 犯) 停車場の改札の事をいふ。  
きりばな (切花 花) 娼妓の半日の花代をいふ。  
ぎる (的) 窃むこと又は掻拂ふことをいふ。  
ギロチン (學) 意地の悪い先生のことをいふ。  
きんかくぢ (金閣寺 犯) 便所のことをいふ。金  
かくしをもぢつた言葉。  
ぎんがみ (銀紙 俗) 無學な文字を知らぬ人のこ  
とをいふ。あきめくらと同じ。  
きんぎよのさしみ (金魚の刺身 俗) 綺麗なばか  
りで喰へないといふ意。  
キング・ポイント (俗) 東都の魔窟玉の井の事。  
玉の字は王(キング)と、(ポイント)である故。  
きんたらう (金太都 俗) 鯛のことをいふ。  
きんちやぶ (俗) 仕事にあぶれて飯も喰へず金魚  
の様に水ばかり飲んでゐるといふこと。  
きんけつ (金穴 俗) 金持又は金融をつけてくれ  
る人のことをいふ。  
きんちやん (金チャン 花) 花柳界、劇場、寄席

などでお客様のことをいふ。きんちやともいふ。  
ぎんどけい (銀時計 俗) 帝大出の優秀者をか  
く呼ぶ。以前帝大の優等卒業生には恩賜の銀時計があつ  
たからである。  
ぎんまん (銀饒 犯) 銀時計のこと。金時計をま  
んぢうといふ所から來た語。  
きんモール (俗) 陸海軍の參謀のことをいふ。肩  
に金モールの胸章をつけて居るから。

ク

くいこみ (喰込み 俗) 損ばかりして商賣になら  
ぬことをいふ。  
くいち (犯) 笑つて居ることをいふ。  
くえないやつ (喰へない奴 俗) 一癖あるもの  
ことをいふ。  
くがい (苦界 花) 遊廓のことをいふ。遊女が苦  
しい勤めをするところであるから。  
くさ (草 犯) 淺草の略。  
くさもち (草餅 俗) 淫賣婦のことをいふ。  
くされえん (腐れ縁 俗) 悪縁で離れても離れき



れないことをいふ。

くぜつ (口説 俗) 男女が親密でありながらつまらぬことを問題にして言ひ争ふことをいふ。

くだをまく (管を巻く 俗) 酒に酔つて何かに角をつけて言ひがかりをつけることをいふ。

くちはつちやうてはつちよう (口八挺手八挺 俗) 辯舌も腕前も共に達者な人のことをいふ。

くちをかける (口を掛ける 花) お客が藝者を招くことをいふ。

くちをわる (犯) 白状することをいふ。

くつがさね (杵重ね 俗) 亭主持ちの女が他の男と姦通することをいふ。

くつわ (忘八 花) 女郎屋の主人公のこと。

くどう (犯) 犯罪に使用する道具の逆さ語。

くないさま (宮内様 俗) 暢氣な人のことをいふ。苦が無いと洒落れた語。

くび (首) 免職又は解雇になったことをいふ。

くびがまわらぬ (首が廻らぬ 俗) 借金が多くつて身動きのとれぬことをいふ。

くびつたけ (首ツ丈 花) 女の方がお客にぞつこ

くわばら (桑原 俗) 用心々々といふ意。

くわへこむ (喰へ込む 花) 藝妓がお客を誘つて連れ込むことをいふ。

ぐんかん (軍艦 俗) 女の子のことをいふ。

けいあん (桂庵 犯) 裁判所のことをいふ。犯罪人を刑務所へ入れる媒介所といふ意味でいふ。

けいがらす (藝烏 花) 一藝に長じて居る者のことをいふ。

けいせい (傾城 花) 遊女のこと。傾國ともいふ。

けいちゃん (的) 時計のこと。時計の計にちゃんをつけた語。

けいはちかせ (替八風 俗) 私娼が賣淫中警官に踏込まれることをいふ。

けざらい (毛嫌ひ 俗) 何の理由もなくたゞ相手の者を嫌ふことをいふ。

けこ (下戸 俗) 酒の飲めない人のことをいふ。

けしずみ (消炭 學) 女學生間で氣短な先生を指していふ。直ぐおこるといふ意。

ん惚れ込んで迷ふことをいふ。

くめせん (久米仙 俗) 女さへ見れば情慾を起して狂態を演ずる者のことをいふ。

くも (蜘蛛 犯) 臺所の引き窓や硝子窓などから忍び入る盗人のことをいふ。

くもじ (俗) 野菜の漬物のことをいふ。

くもをつかむ (雲を掴む 俗) 漠然としてゐて掴へどころのないことをいふ。

くらがへ (鞍替 俗) 藝者や娼妓などが稼ぎ場所を轉ずることをいふ。住替と同じ。

ぐれ (俗) 愚連隊の略語。

ぐれ (犯) 仕事に都合の好い闇夜のことをいふ。

ぐれる (俗) 身を持ち崩すことをいふ。

くろ (黒 犯) 相鍵がなくては開けることの出来ないことをいふ。

くろぼたん (黒牡丹 犯) 牛のことをいふ。

くわすざらい (食す嫌ひ 俗) 物事を實際に試さずにたゞ氣持だけで嫌悪することをいふ。

くわのすじ (鉄の筋 俗) 百姓上りの金持や名望家のことをいふ。

けしようしつ (化粧室 花) 便所のことをいふ。

けすいねずみ (下水鼠 犯) 便所の汲取口から忍び込む泥棒のことをいふ。

けそぶくろ (的) 足袋のことをいふ。下足の袋といふところから來た語。

けたばこ (下駄箱 犯) 巡査派出所、駐在所又は交番所のことをいふ。

けため (下駄目 的) 數量の三のことをいふ。参錢・参拾錢・参圓など。

けだもの (犯) 金庫のことをいふ。

けたまはく (下駄をはく 俗) 人から頼まれて買物をする時其中のいくらかの上前をはねる事をいふ。

けちがつく (俗) 物事を始める時に不吉の前兆があることをいふ。

けつがわれる (犯) 何か以前にやつてある不始末が曝露することをいふ。

けつこうじん (結構人 俗) 愚頓な人の事をいふ。愚人は心に何の煩ひもなく氣樂であるからである。

けとばし (俗) 馬肉のことをいふ。

けのないさる (毛のない猿 俗) 人にして人に非



ずといふこと。人面獸心と同じ。  
 けびよう(假病 俗) 偽病氣のことをいふ。  
 けまつり(毛祭 犯) 娼妓や淫賣婦を相手にして遊興に耽溺することをいふ。  
 けむし(毛虫 俗) 世間の人々から嫌悪されてゐる人のことをいふ。  
 けむになる(煙になる 俗) 物事がうやむやの中に消えて失くなることをいふ。  
 けむにまく(煙に捲く 俗) 辯舌が巧みで人を茫然自失せしむることをいふ。  
 けれん(犯) ベテンと同じ様に人を欺くことをいふ。けれん師は詐欺師のこと。  
 けん(犯) 女のことをいふ。  
 けんこ(俗) 五錢・五十錢・五圓といふやうに五代數詞。  
 けんさま(玄様 俗) 醫者のこと。又くらくと(玄人)のこともいふ。  
 けんじな(源氏名 花) 遊女はすべて本名を使はずに源氏物語の題名にあるやうな夕顔とか若紫松風・初音などと假りの名をつけて使ふ事を源氏名といふ。

けんじる(犯) 捜して見ることをいふ。  
 けんすけ(源助 俗) 人に頼まれると得意になつてその事を行すがすぐ失敗する人のことをいふ。  
 けんなま(現生 俗) 品物にかへずに現金そのままのことをいふ。  
 けんのうがん(健腦丸 俗) よく物忘れをする人のことをいふ。  
 けんのまへ(犯) 女の帯のこと。又女の帯の間に入れているものを覗ふ掏摸のことをいふ。

コ

ごい(五位 夜) 夜逃げのことをいふ。五位黨は夜飛ぶからである。  
 こうえんずら(公園面 俗) 幅の廣い大きな面積のある顔のことをいふ。  
 こうきうび(公休日 花) 月經のことをいふ。  
 こうは(硬派 俗) 不良少年の中に硬軟の二派がある、その中の暴力行爲を用ふる方のことをいふ。  
 こがたなざいく(小刀細工 俗) 小さな奸策をめぐらすことをいふ。

ごくつぶし(殺潰し 俗) 何の備もしないで徒食するもののことをいふ。娑婆塞ぎと同じ。  
 ごくない(極内 花) 極めて内密のことをいふ。  
 ごげ(後家 俗) 未亡人・寡婦のことをいふ。  
 ごごうし(小格子 花) 小店の遊女屋のことをいふ。ちよん／＼格子ともいふ。  
 ございもの(的) 田舎者のことをいふ。  
 ごしかけ(腰掛 俗) 一時的の仕事や又一時的の就職のことをいふ。  
 ごしぎんちやく(腰巾着 俗) 子供のこと、又何時も上役の人にくつついて歩いてゐる人の事をいふ。  
 ゴシツク(俗) 群衆の中で一きわ特に目立つ姿態をして居る者のことをいふ。  
 ごしをおる(腰を折る 俗) 着手した仕事が進んで頓挫すること、又話し途中で中止になる事をいふ。  
 こずま(小夫 花) 遊女のなじみの客、情夫(まぶ)のことをいふ。  
 こすめる(俗) お化粧をするとか、めかすことなどをいふ。  
 こども(花) 藝者屋や待合で藝者のことをいふ。

ごなん(御難 演) 地方興行が不入つきのため旅先で困難してゐることをいふ。  
 ごにや(五二屋 犯) 質屋のことをいふ。  
 ごにゆうらい(俗) 浪花節のことをいふ。  
 こめかさごう(粉糰三合 俗) 婿養子のことを輕蔑していふ。  
 こねぼう(捏棒 犯) 箸のことをいふ。  
 こばい(故買 犯) 盗品である事を知りつゝ買ひ受ける事。又「けいづ」買ひともいふ。  
 こぶ(痛 俗) 子供のことをいふ。こぶ付は子供連れのことをいふ。  
 ごぶれい(御無禮 不) 不良少年仲間が女に關係することをいふ。  
 ごへいかつき(御幣擔 俗) 迷信家のことをいふ。えんぎかつぎと同じ。  
 こべる(犯) 鑿の如き刀物をいふ。  
 こます(護摩酸 僧) 酒のこと。般若湯ともいふ。  
 こますり(胡麻摺り 俗) 自己の利益を得るために目上の人に對し追従したり諛らつたりする言動をすることをいふ。



こまち (小町 俗) 町内やそのかいわいで美しい娘のことをいふ。  
 こまものや (小間物屋 俗) 酒や船、車などに酔つて嘔吐すること。又デパートとか八百屋ともいふ。  
 ごみし (芥師 犯) 反物などを行商する振をして家人の隙を狙つては窃盗を働くことをいふ。  
 ごみばこし (芥箱師 犯) 電車、乗合自動車、馬車等の中を専門に働く掏摸のことをいふ。  
 こめつきばつた (米搗ばつた 俗) 無暗に頭ばかりをべこ〜と下げる人のことをいふ。  
 ごろ (的) 喧嘩のこと。大きな「ごろ」があつたなどといふ。  
 ごろう (五郎 犯) 啞のことをいふ。  
 ごろし (殺し 犯) 殺人のことをいふ。  
 ごろす (殺す 俗) 入質することをいふ。  
 ごろび (的) 的屋の中で雄辨に效能書を述べたてて品物を賣るたんか屋のことをいふ。  
 ごんさい (權妻 俗) 妾のことをいふ。  
 コンビーフ 中味が一杯詰つてゐる意味からビルディングなどへ通勤する人のことをいふ。

こんべいとうのふうふ (金平糖の夫婦 俗) やきもち焼の夫婦のことをいふ。ちきに角を出すから。  
 こんまいか (俗) 普通人より劣等な人の事をいふ。

サ

さい (犯) 財布や紙入のことをいふ。  
 さいくい (的) 臭いこと。単ににほひだけでなく「らしい」の意味もある。  
 さいごつべ (最後尻 犯) いや〜助からぬと思つた時に秘術を出して相手を引つ込ますことをいふ。  
 さかて (俗) 貨銀の外に酒代として遣る祝儀のことをいふ。  
 さがみおんな (相模女 俗) 好色で尻軽な女のことをいふ。腰辨當で男の後を追ひ廻すといふ。  
 さきぼう (先棒 俗) 人の手先に使はれて喜んで踊る人のことをいふ。  
 さきむら (犯) 醬油のことを花柳界でむらさきといふのを逆にいつたもの。  
 さくぞう (作藏 俗) 男根のことをいふ。子を作る種を藏して居る意から。

さくら (櫻 的) 露店商人などが品物の購買心を誘ふやうに客の中に入れて置く自分等の仲間をいふ。  
 さくらにく (櫻肉 俗) 馬肉のことをいふ。  
 さぐり (探り 犯) 闇夜のことをいふ。闇夜は眞暗で手探りで物を知るからである。  
 さけ (犯) 警察署のことをいふ。  
 さこね (雑魚寝 花) 大勢の男女が相交つて寝ることをいふ。  
 さし (犯) 共犯者なしで自己獨自でやることをいふ。相さしの略。  
 さしがね (指金 俗) 指圖の意。「これは誰かの差し金だな」などといふ。  
 さじをなげる (匙を投る 俗) 醫者が患者を見離すことから一般に或物事の救済望みなしと斷念することをいふ。  
 さだくろう (定九郎 犯) 傘のこと。又鐵砲のこともいふ。  
 さつ (祭 犯) 警察の略。  
 サツカリン (俗) 甘い人間のことをいふ。  
 さつまのかみ (薩摩守 俗) 汽車や電車などを只

乗りすること。又その人をいふ。  
 さど (佐渡 俗) 金銭のことをいふ。佐渡には金山があるのに由来する。  
 さばよみ (鯖讀 俗) 數へる數を胡魔化する。  
 さぶ (犯) 縁日や夜店の場所ですりを働くことをいふ。「ひらば」と同じ。  
 さま (様 俗) 情人のことをいふ。  
 さめはだ (鮫肌 俗) ザラ〜した肌觸りの悪い女のことをいふ。  
 さり (犯) 掏り取つて來た品物や盗んで來た金品のことをいふ。  
 さるご (筑碁 俗) 下手な碁のことをいふ。  
 さるまた (猿股 犯) すりの遣り方の一種。  
 さるまわし (猿廻し 犯) 刑務所の看守のことをいふ。  
 さわし (犯) 詐欺賭博を行ふ者のことをいふ。  
 さんぎようち (三業地 花) 藝者屋、待合、料理屋の三營業を特に許可されてゐる土地のことをいふ。  
 さんげんげいじつか (三絃藝術家 俗) 藝者のことをいふ。



さんずん(三寸 的) 路店商人の組合の名稱。又小店ともいふ。  
 さんたく(山澤 犯) 數量の多いことをいふ。澤山の逆さ語。  
 さんばそう(三番叟 俗) 物事の初めをいふ。猿樂から出た語。  
 さんびやく(三百 俗) 俗にいふ三百代言の略。又下等な辯護士のことをいふ。  
 さんぶんてき(散文的 俗) 無意味の意から、何等の人間味もない殺風景な人のことをいふ。  
 さんまいもの(三枚者 犯) 三人が共謀して犯罪を働くこと。又三人の共犯者のことにもいふ。

シ

しあんじよ(思案所 俗) 便所のことをいふ。  
 じうさん(十三 俗) 櫛のことをいふ。ク(九)シ(四)の音から出た語。十三屋は小間物屋のこと。  
 しうは(秋波 俗) 横目を遣つて惚れた表情をすることをいふ。  
 しうんてん(試運轉 花) 所謂水揚のことをいふ。

しおどき(潮時 俗) 時機の熟せること。事件着手の好機會のことをいふ。  
 じがじさん(自畫自讃 俗) 自分が偽した事柄を自分でほめることをいふ。  
 しきいがたかい(閻が高い 俗) 何か不義理な事がしてあつたり、永く無沙汰をしてその家へ行きにくくなつてゐることをいふ。  
 しくはつく(四苦八苦 俗) 財政状態が非常に逼迫して居ることをいふ。  
 しけ(的) 下等のことをいふ。  
 じけ(時化 犯) 結果の不安又は時機の不良とか境遇困難な状態をいふ。  
 じけい(事刑 犯) 刑事を逆さにいつた語。  
 しけこむ(花) 妓樓などへ入り込むことをいふ。  
 しくつたむくい(猪喰つた報い 俗) 花柳病にかゝる事、又享樂の結果の苦勞の事。因果應報と同じ。  
 しどみ(蜆 花) 半玉のことをいふ。一本の藝者のことは蛤。  
 しつけない(失敬する 犯) 他人の所持して居る金品を無断で持つてくる事をいふ。

しつゝき(犯) 鍵などを開けるために使用する道具類のことをいふ。

しばひめ(芝姫 俗) 夜間人通りの少い街路又は公園などに出て袖を引く淫賣婦のことをいふ。  
 じばら(自腹 俗) 自分の持金のこと。じばらを切るとは自分の持ち金で支拂をすることをいふ。  
 しびれをきらす(俗) 永い間辛抱して遂にたまりかねることをいふ。  
 しぐい(濫い 犯) 味なことをやるといふ意。  
 しぶかがわがむけてゐる(濫皮がむけて居る 俗) 一寸小綺麗な女のことをいふ。  
 じまえ(自前 花) 抱へ主とは何の貸借関係もなく、獨立で營業をしてゐる藝者のことをいふ。  
 しまだむすめ(烏田娘 娘) 財物が豊富にある土藏や倉庫のことをいふ。十七娘ともいふ。  
 しもけし(霜消 犯) 酒を飲むこと。一杯酒をしつかけると霜夜の寒さをも消し忘れるといふ意。  
 しもたや(俗) 商賣をしてゐない家のことをいふ。  
 しものやまい(下の病 俗) 男女の性病のことをいふ。

しやあく(俗) 恥も外聞も氣にかけないで平氣で居ることをいふ。  
 しやくやくのたはむれ(芍薬の戯れ 俗) 菩薩の様な氣高き婦人が密に男子と情を通じることをいふ。  
 しやこうびよう(社交病 俗) 花柳病のこと。  
 ジャズ(俗) 何事にも兎や角と口喧しく言ふ人のことをいふ。  
 しやつば(俗) 藝事や仕事などの下手な人のことをいふ。  
 しやてん(車電 犯) 電車を逆にいつた語。  
 しやば(娑婆 犯) 世間とか浮世とかと同じ意で監獄外のことを指す。娑婆に出る、娑婆の風に當るなどといふのは出獄することをいふ。  
 しやり(砂利 犯) 食事又は米飯のことをいふ。又子供のことをいふ。  
 しやん(俗) 容貌の美麗な女のことをいふ。  
 じゆういちばん(十一番 俗) 男女が接吻することをいふ。ズズの頭文字が十一番目にあるから。  
 しゆうと(姑 犯) 番犬のことをいふ。番犬は姑のやうにうるさいところから來た語。



じゆうばこしゆき(重箱主義 俗) 些細の事まで  
 兎や角と注意を拂ふ人のことをいふ。  
 じゆうばこみやげ(重箱土産 俗) 不義の子を宿  
 してボチレンになつてゐる女の嫁入のことをいふ。  
 じゆうさんり(十三里 俗) 焼芋のことをいふ。  
 じゆうはちばん(十八番 俗) おはこと同じ。  
 じゆうろく(的) 小便のことをいふ。「じゆうろ  
 くへいつてくるから頼むよ」などといふ。  
 じゆくし(熟柿 犯) 甘さうな事柄のことをいふ。  
 じゆずつなぎ(珠數繫ぎ 犯) 犯罪者が一度に數  
 人捕縛されることをいふ。  
 しゆせんど(守銭奴 俗) 吝嗇で金錢を貯め込む  
 許りが能で使ひ途を知らない者のことをいふ。  
 じようご(上戸 俗) 酒を飲む人の事をいふ。  
 じようぐ(猩猩 俗) 大酒家のことをいふ。  
 じようじん(犯) 明方のことをいふ。  
 じようとう(上頭 花) 藝者や娼妓が處女を破る  
 ことをいふ。水揚と同じ。  
 じようべい(庄兵衛 俗) 頭巾のことをいふ。  
 じようべんする(小便する 俗) 一度契約したこ

とを途中で止めにすることをいふ。  
 じようゆうだる(醬油樽 俗) 情痴亂行の婦人の  
 ことをいふ。  
 じよかい(初會 花) 遊廓にて最初の客のことを  
 いふ。二度目は馴染、三度目は裏といふやうに。  
 じよせいのようかん(書生の羊羹 俗) 焼芋のこ  
 とをいふ。  
 じらかわ(白河 犯) 熟眠することをいふ。白河  
 夜船の略語。  
 じらたき(白瀧 犯) 聚雨のことをいふ。  
 じらなみ(白波 犯) 女の盗人のことをいふ。  
 じらはのや(白羽の矢 俗) 多數の中から自分の  
 好むものを選び定めることをいふ。  
 じらふ(犯) 酒を飲まないで酔つた振りをするこ  
 とをいふ。一般にもいふ。  
 じらまざる(白を切る 犯) 白々しい態度でなか  
 なか眞實を言はぬことをいふ。  
 じりがあつたまる(尻が温る 俗) 一つ所に落付  
 いて居馴れることをいふ。  
 しろいははみせられない(白い歯は見せられない

俗) 優しい顔は見せられないとか少しも油断は出来  
 ないなどの意。  
 しろぎつね(白狐) 夏服の巡查のこと。冬服の巡  
 査は烏といふ。  
 しろくび(白首 俗) 淫賣婦のことをいふ。  
 しろねずみ(白鼠 犯) 店員が店の品物を盗み出  
 すこと、又その人のことをいふ。一般には年功を経た  
 る番頭さんのことをいふ。  
 しろをぬる(白を塗る 犯) 長箱師が仕事をす  
 るために堂々たる紳士の風を装ひ一等(白切符)で乗り  
 廻すことをいふ。  
 じん(的) やし以外の商人のことをいふ。  
 じんごろう(甚五郎 犯) 猫のことをいふ。左甚  
 五郎の眠り猫から來た語。  
 しんすいしき(進水式 俗) 物を使用する前に試  
 みることをいふ。又初経験のことをいふ。  
 じんすけ(甚助 花) 男のやきもち焼きのことを  
 いふ。  
 しんち(新地 花) 二業地や三業地のやうな花柳  
 街のことをいふ。

しんねこ(花) 待合の四疊半位な部屋で好な藝者  
 としんみりと遊ぶことをいふ。  
 じんばり(腎張 俗) 男女とも性慾の旺盛強烈な  
 る者のことをいふ。  
 しんるい(親類 不) 不良少年仲間で警察署のこ  
 とをいふ。

ス

すいじん(醉人 花) 物わがりの好い粹な人のこ  
 とをいふ。  
 すいてつぼう(的) 煙管のことをいふ。  
 すいとり(吸ひ取 犯) 拘り取つた品物を直接の  
 犯人から仲間の者が受取つて逃げることをいふ。  
 すいばれ(的) 雨降りのこと。天氣は「よりひ」。  
 すいへいしや(水平社 俗) 人間の差別待遇を撤  
 廢せよと猛運動を起した或る階級團體のことをいふ。  
 すえせん(据膳 花) 女の方から盛んに愛慾をさ  
 さげることはいふ。又一般に物事を供へて人に勧める  
 ことをいふ。  
 すえひろ(末廣 俗) 扇子のことをいふ。元の方



より末の方が廣くなるから。  
**すかし** (透し 犯) 硝子障子のことをいふ。透して見えるから。  
**すかれる** (犯) 犯罪事実のあることを刑事などに探知された様子のあることをいふ。  
**すかんびん** (素寒貧 花) 一錢の所持金もない者のことをいふ。  
**すけま** (助間 犯) 下駄や靴などを専門に働く泥棒のことをいふ。  
**すこたり** (俗) 少し足りない薄野呂間のこと。  
**すたん** (犯) 箆筒のことを逆にいつた語。  
**スタンブ** (花) 情交關係を結ぶことをいふ。  
**すつばぬく** (素破抜く 俗) 他人の秘密を大勢の前で打ち明けることをいふ。  
**すてことは** (棄詞 俗) 凄い文句を並べて相手の返事も待たないで立去る事をいふ。棄せりふと同じ。  
**すなぶろ** (砂風呂 俗) 淫賣屋のことをいふ。  
**すべこう** (不) 不良少女のことを仲間で使ふ語。  
**すべた** (俗) 醜婦のことをいふ。  
**すもうのえ** (相撲の繪 俗) 春畫のことをいふ。

**すもじ** (壽文字 花) 壽司のことをいふ。  
**すぼし** (圖星 俗) 見込の通りとか、思ひもうけたるのとかの意。  
**すりばち** (摺鉢 犯) 饒重笠のことをいふ。  
**すれつからし** (俗) 社會の荒波にもまれて性質が悪達者になつてゐる者のことをいふ。

セ

**せいろう** (青樓 花) 遊女屋のことをいふ。  
**せか** (的) 風のことをいふ。風の逆語。  
**せがれ** (倅 俗) 男根のことをいふ。又息子ともいふ。  
**せこい** (俗) 客種の悪いことをいふ。又入場者が少ないとか景氣が悪いとかにも使ふ。  
**せじ** (世事 俗) 房事のことをいふ。  
**せつた** (雪駄 俗) 選挙の投票を後金で買収すること。又事件の後に渡す金のことを一般にいふ。  
**せがみ** (潮踏 俗) 事に當る前に先づ先方の様子を窺かに見聞することをいふ。  
**せぶり** (犯) 天幕張の宿所のことをいふ。せぶり

つきの略。

**せぶる** (的) 寝ることをいふ。  
**せみ** (迫 犯) 裏小路、人家に沿つた路次又は貧民窟の様な所をいふ。  
**せんこだい** (線香代 花) 藝者や娼妓の玉代のことをいふ。時計のない時代に線香をたいて玉代を勘定したのでかく呼ぶのである。  
**せんじゆかんのん** (千手觀音 俗) 虱のことをいふ。形から來た語。  
**せんずり** (千摺 犯) 蠟燭のことをいふ。  
**せんみつや** (千三つ屋) 千の中三つだけが眞實だといふ當にならぬ人のことをいふ。  
**せんて** (先手 俗) すべて物事に人より先に手をつけることをいふ。先手を打つなどといふ。  
**せんりようやくしや** (千兩役者 俗) 歌舞伎俳優で勝れた技藝のある者のことをいふ。又一般に有爲有用な人のことをいふ。  
**せんれい** (洗禮 俗) 男女が初めて異性と情交關係を結ぶことをいふ。

リ

**ぞう** (贓 犯) 盗んで來た贓品の略。  
**そうか** (總嫁 俗) 淫賣婦のことをいふ。  
**そうばな** (總花 花) お客が藝者や娼妓以外の女將、女中、下男等總ての者に祝儀をやることをいふ。  
**そうめん** (素麵 犯) 巡査や刑事などが持つてゐる捕縄のことをいふ。  
**ぞうろく** (藏六 俗) 龜のことをいふ。  
**そぎ** (素義 俗) 素人義太夫のことをいふ。  
**ぞきや** (俗) 商品の見切品や特價品を賣買する人のことをいふ。  
**そこぬけさわげ** (底抜騒ぎ 花) 散財お構へなしの大亂痴氣騒ぎの遊興のことをいふ。  
**そてごい** (袖乞 俗) 乞食のことをいふ。  
**そてにする** (袖にする 花) 情人であつた者を厭氣がして來たので急に嫌ふことをいふ。  
**そでのした** (袖の下 俗) 賄賂のことをいふ。人に知れぬ様にそつと袖の下から渡すところから。  
**そとすゞめ** (外雀 俗) 家を外に飛んで歩き廻る



人のことをいふ。

そとも(犯) 二人が共謀して一人は後ろから悪戯をし被害者が後を振り返る隙に前の一人が懐中物を取り取る方法のことをいふ。

そばづえ(傍杖 俗) 何等の關り合ひもない者が他人の事件の中へ引きづり込まれることをいふ。

そばもち(傍餅 俗) 一人で寝て居る時、隣室で男女のしめやかなる睡言をきかされることをいふ。

「昨夜は傍餅を食つたよ」などといふ。

そらまつかう(空を使ふ 俗) わざと素知らぬ顔をすることをいふ。

それしや(花) 藝者や娼妓のことをいふ。

夕

だい(犯) 懐中物のことをいふ。

たいいん(退院 俗) 刑務所から出ることをいふ。

だいから(犯) 空財布のことをいふ。だい(懐中物)がからといふこと。

だいきよう(弟兄 犯) 兄弟の逆さ語。

だいきく(大黒 俗) 僧侶の女房のことをいふ。

だいきくばしら(大黒注 俗) 一家の主人のこと。  
たいこもち(太鼓持 花) 花柳界で酒席に侍り興を添へることを職業にしてゐる男藝者のことをいふ。

だいきん(大根 俗) 技藝の拙劣な下つ端役者のことをいふ。

だいさんき(第三期 俗) 肺病や花柳病の全治の見込のない重患者のことをいふ。

だいしやりん(大車輪 俗) 或る事に一生懸命になり奮勵努力することをいふ。

だいじんあそび(大盡遊び 花) 札ピラを切つて派手な遊びをすることをいふ。

だいじんぐう(大神宮 犯) 鶏のことをいふ。

だいや(犯) 腕力の強い者のことをいふ。

たかい(高い 犯) 取り取ることが非常に困難であるといふこと。

たかくとまる(高く止る 俗) 偉らさうに自ら尊大振ることをいふ。

たかさごしや(高砂舎 俗) 結婚媒介所のこと。

たかはり(高張 犯) 刑務所の所長のことをいふ。

たきだし(炊出 犯) すりの一手段で、被害者のことを陰口していふ語。

たばこのむし(煙草の虫 俗) 裏に廻つてこそこそと仕事をする者のことをいふ。煙草の葉の害虫は葉裏に居るからである。

たばる(俗) 田夫野人の田とバルチザンのバルとの合成語で、狂暴なことを意味する。

たびがらす(旅烏 俗) 旅から旅へと廻つて歩いてゐる人のことをいふ。

ダブル(學) 試験に不成績で落第する事をいふ。同一級を二度重ねるから。

たまがわ(玉川 花) 水道の水のことをいふ。

たまのこし(玉の輿 花) 下層階級の娘が一躍権門地位のある人又は富豪などの妻になることをいふ。

だめをおす(駄目を押す 俗) 人の言つたことを更に問ひ返し 確かめることをいふ。

だよ(犯) 祕密のことを仲間中でいふ言葉。

たらう(太郎 犯) 懐中物のことをいふ。

だるま(達磨 花) 達磨に手足のない所から金のない客のことをいふ。

だるまや(達磨屋) 達磨の様に轉ぶ女(賣笑婦)のこと。

袂の中へ煙草の吸殻を投げ込み被害者が狼狽する隙をねらつて懐中物を取り取することをいふ。

たきつける(炊きつける 俗) 人を煽動して嫉妬心を募らせることをいふ。

たこつり(蛸釣 犯) 格子窓などから竹竿の先に鉤をつけたものを入れて屋内の衣類等をとること。

だしにつかふ(出に使ふ 俗) 自分の野望を遂げる爲めに他人を利用することをいふ。

たゞき(犯) 強盜のことをいふ。

たゞのねずみでない(唯の鼠でない 俗) 尋常一様の人間でないとか、何か一癖ある人とかの意。

だち(犯) 人込の混雑して居る場所で働く掏摸のことをいふ。又掏摸仲間のことをいふ。

たちは(立場 犯) 祭禮、縁日、物日其他群衆の多く集つて雑踏する場所のことをいふ。

たなし(店師 犯) マアケツト、百貨店などでの萬引常習者のことをいふ。

たねうま(種馬 俗) 子を産ませるために貰つた蟹のことをいふ。

たばこ(煙草 學) 女學生間で生意氣な男學生の



居る家のことをいふ。

たれぎだ (女義太 俗) 女の義太夫語りのことをいふ。たれは「女」のこと。

たれた (的) 惚れること。「たれた」女を「なをこます」(くどくこと) などといふ。

たんか (啖河 俗) 齒切のいゝ江戸辯をいふのであるが、抗辯、争論、嘲弄罵倒することをもいふ。

タンク 猛獠、野蠻な人のことをいふ。

たんぜん (丹前 俗) 唇の厚い人のことをいふ。丹前はふけの出が多い所から。

子

ちうすけ (忠助 俗) 鼠のことをいふ。

ちうべい (忠兵衛 犯) 仲間と被害者との間を取り持つ役をすることをいふ。

ちか (的) ゴム風船のことをいふ。「ちかや」はゴム風船賣のこと。

ちがい (違ひ 犯) 行違ふ瞬間に懐中物を掏り取る方法をいふ。

ちがね (地金 俗) 秘し隠してゐる本来の性質が露出することをいふ。

ちぎさめ (直醒 俗) 水を混ぜてある薄い酒のことをいふ。飲んでもすぐ醒める所から。

ちきや (犯) 掏摸仲間で自分達のことをいふ。

ちくよう (竹葉 花) 酒のことをいふ。おさよといふといふころから来た語。

じごくばら (地獄腹 俗) 女の子ばかりを産む母體のことをいふ。

ちごくみ (地獄耳 俗) 一度耳に入れたら一生忘れないといふ強記の人のことをいふ。

ちだま (地玉 花) 素人女のことをいふ。

ちくくさい (乳臭い 俗) 未熟者のことをいふ。

ちくくりあう (乳繰り合ふ 俗) 若い男女がいちやついてふざけることをいふ。

ちてちをあらう (血で血を洗ふ 俗) 親子、兄弟その他血族の間で相争ふことをいふ。

ちぼ (犯) 掏摸のことをいふ。

ちまわり (地廻り 犯) 一定の土地に縄張りを持つてゐてその邊をうろつく浮浪人のことをいふ。

ちようせんぶち (朝鮮斑 的) 的屋仲間で朝鮮人を装ふ行商人のことをいふ。

ちようちんのはりかへ (提灯の張替 俗) 食事をすることをいふ。

ちようちんもち (提灯持 俗) お世辭を言つて追従することをいふ。すべて人の爲に案内や紹介の勞をとつて利得を得ようとするもののことをいふ。

ちようまい (俗) 女郎買ひに行くことをいふ。ちよう (女郎のこと) を買ひに行くの意。

ちようもく (鳥目 俗) 金錢ののことをいふ。

ちようろく (長六 犯) 倉庫や土藏のことをいふ。

ちよんのみ (花) お客と藝者が交情を結ぶ秘密の部屋のこと。一寸の間から来た語。

ちりめん (縮緬 花) 年増女のことをいふ。顔にちりめん皺が出来てゐるのでいふ。

ぢんがさ (陣笠 俗) 平代議士のことをいふ。

ちんかも (俗) 極めて仲の睦まじい若い夫婦のことをいふ。

ちんきち (犯) 財布のことをいふ。

ちんくしや (俗) 鼻の低い醜い女のことをいふ。

ちまわり (地廻り 花) 遊里で無錢遊興をする客があつた場合にその處置をする土地の俠客をいふ。

ちみ (地見 俗) 縁日や夜店の盛り場を人がなくなつてから落し物を拾つて歩くことをいふ。

ちやがいも (チャガ芋 俗) ニキビ盛りの青年男女のことをいふ。

ちやくふく (着服 犯) 人に渡すべき金品を横領して知らぬ顔をすることをいふ。猫はとと同じ。

ちやく (ま) 入れる (茶々を入れる 俗) 他人の談話中に横合から不真面目なことを話し込んでその話を打ち壊すことをいふ。

ちやのみともだち (茶飲み友達 俗) 老人夫婦のことをいふ。又老人の後妻のことをいふ。

ちやぶや (花) 船着場の私娼窟のことをいふ。

ちやらふいた (犯) 料理屋の酌婦や仲居と情交を結ぶことをいふ。

ちやりふる (犯) 折角掏りとつた品物を遺棄することをいふ。

ちよう (的) 店頭に立寄る客のことをいふ。

ちようじん (鳥人 俗) 上手な飛行家の事をいふ。



ちんこう (犯) 私娼のことをいふ。  
 ちんころ (犯) 犯罪を密告する人のことをいふ。  
 ちんすけり (犯) 人妻のことをいふ。  
 ちんた (陣太 犯) 昔風な旗竿を擔ぎブカ／＼ド  
 ン／＼の音楽で廣告をして歩く弘目屋のことをいふ。  
 ちんだ (賃駄 俗) 駄賃の逆さ語。  
 ちんふり (犯) 下等藝者のことをいふ。  
 ちんぼつ (沈没 花) 待合や遊里に入り浸りにな  
 ることをいふ。  
 ちんまい (犯) 若い娘のことをいふ。

ツ

つう (通 花) 花柳界の事情によく通じて居る人  
 即ち通人のことをいふ。  
 つうかえき (通過驛 俗) 月給取のことをいふ。  
 つがいえ (番ひ繪 俗) 春畫のことをいふ。  
 づかれる (犯) 見付けられた、氣づかれたなどの  
 ことをいふ。  
 つきだし (突出 花) 遊廓で女郎が初めて店に出  
 ることをいふ。初店と同じ。

つきみそう (月見草 俗) 娼妓や淫賣婦のことを  
 いふ。夜になると美しく化粧して出るから。  
 つきよのかに (月夜の蟹 俗) 月夜の蟹は昔から  
 身がないと云はれてゐるので、頭のない低級な人のこ  
 とをいふ。  
 づく (犯) 感づくの略語。  
 つぐめ (俗) 寡婦のことをいふ。  
 づけ (俗) まぐるずしの脂身の少ないところをい  
 ふ。脂身の多いところはとろ。  
 つけうま (附馬) 馬と同じ。  
 つけさげ (犯) よい掠鳥を見つけて遠方まで追ひ  
 廻したがどうにも仕事が出来ないので仕方なしに途中  
 で同業者に譲り渡すことをいふ。  
 つじ (辻 犯) 非常警戒線のことをいふ。  
 つじぎみ (辻君 俗) 賣春婦のことをいふ。  
 つじぎり (辻斬 不) 不良少年が女學生の通學の  
 途中を待ち受けて誘惑することをいふ。  
 つもたせ (美人局 犯) 夫婦が共謀で財産や地  
 位のある男に妻を提供して金銭をまき上げたり権利を  
 得たりすることをいふ。

つなぎ (犯) 電話のことをいふ。  
 づにのる (圖に乗る 俗) いゝ氣になつて得意が  
 ることをいふ。  
 つのざいく (角細工 俗) 張形のことをいふ。婦  
 人の用ふる淫具の一種。  
 つばめがへし (燕返し 犯) 被害者を突き倒して  
 その隙に金品を掏り取る方法をいふ。  
 つぼ (局 犯) 警視廳のことをいふ。  
 づま (俗) 奇術師のことをいふ。手づまのづまだ  
 けをとつたものである。  
 づまがり (頭曲り 俗) 根性のひねくれてゐる人  
 又は變人のことなどをいふ。  
 つまみぐひ (撮み喰ひ 俗) 妻帯者が誰彼の別な  
 く女あさりをすることをいふ。  
 つむじまをける (頭を曲げる 俗) 人が機嫌を悪  
 くすること、又變心することをいふ。  
 づや (圖屋 犯) 故買者のことをいふ。  
 つゆかせぎ (梅雨稼ぎ 俗) 日傭ひ労働者の妻が  
 梅雨季だけ淫を鬻ぐことをいふ。連日の雨で夫の収入  
 が絶無なので妻が稼ぐからである。

つらあて (面當 俗) 面白くない者の面前であて  
 つけがましいことを言つたり仕たりすることをいふ。  
 づらかる (犯) 逃亡して行方不明になる事をいふ。  
 つれこみ (連れ込 花) 女を連れて待合や宿屋な  
 どへ泊り込むことをいふ。  
 つんシャン (俗) 美人藝者のことをいふ。つんは  
 三味線、シャンは美人といふ所から。

テ

て (出 犯) 逃げ口のことをいふ。  
 ていげきびじん (帝劇美人 俗) ゴテ／＼と厚化  
 粧をして芝居見物に行く有閑婦人のことをいふ。  
 ていけのはな (手活の花 花) 藝者や娼妓を落籍  
 して妻や妾にした女のことをいふ。  
 ていでん (停電 俗) 待合に沈没する人、又長座  
 をする人のことをいふ。  
 てうち (手打 俗) 約束が成立したこと、又仲裁  
 者によつて仲直りが出来た時拍子することをいふ。  
 てか (犯) 刑事調査のこと、又詐欺犯行の場所へ  
 現はれる偽刑事のこともいふ。



てながい (手が長い 犯) 盜癖のある人のことをいふ。手癖が悪いと同じ意。  
 てきぼし (出来星 俗) 成金のことをいふ。  
 てきや (的屋 俗) 路店商人又は香具師のことなどをいふ。  
 てくだ (手管 花) 人を迷はす手際のこと。  
 てぐち (手口 犯) 犯行の方法のことをいふ。  
 てこ (的) 箸のことをいふ。  
 てし (俗) 箸のことをいふ。  
 てつかり (犯) 火事場泥棒のことをいふ。  
 てつかんビール (俗) 水道の水のことをいふ。  
 てつけ (手付 俗) 男女が接吻することをいふ。一般の手付の意味から轉じたもの。  
 てつちる (的) 殴ぐること、張り倒すことをいふ。  
 てつちる (犯) 眞實を白状させることをいふ。  
 てつぼうだま (犯) 用事に行つたきりで歸つて来ないことをいふ。  
 ててひめ (出て姫 花) 藝者や娼妓のこと。  
 てにいつたもの (手に入つたもの 俗) ある技術に熟練通達せることをいふ。

てばな (出花 花) お茶のことをいふ。お茶といふと茶を挽く事に聞えて縁起が悪いからである。  
 てばなし (手放し 俗) 他人に對して少しも遠慮をせずにのろけ話をすることをいふ。  
 てら (犯) 電燈、瓦斯その他一切の照明の器具のことをいふ。  
 てらす (犯) 放火することをいふ。火を燃してあたりを照すところから。  
 てらつけ (犯) 構すのことをいふ。  
 てらぶくろ (寺袋 的) 提灯のことをいふ。  
 てれすけ (俗) 色事を好みて身にしまりのない男女のことをいふ。  
 てれる (俗) 興のさめることで、衆人の前にていさゝか面目を失ひたるさまをいふ。  
 てきる (手を切る 俗) 今までのすべての關係を絶縁することをいふ。  
 てきやく (手を焼く 俗) 事業などで失敗した事。また人などのことで困却することをいふ。  
 てん (的) 大丈夫。間違ひのないといふこと。  
 てん (天 犯) 天窓破りの略。

てんいち (天一 犯) 四圍の狀況が安全で諸事決行に適當なる好時機のことをいふ。  
 てんえつ (天悅 僧) 僧侶仲間の情事をいふ。  
 てんがい (天蓋 僧) 蝸のことをいふ。  
 てんかつ (天勝 犯) 快晴日のことをいふ。  
 てんがんつう (天眼通 俗) 世間の出来事を一切看破して過らない洞察力のある者のことをいふ。  
 てんぐ (天狗 俗) 高慢又は自分の事を自慢することをいふ。犯罪語では雨天、降雨の事をいふ。  
 てんぐのもうしご (天狗の申子 俗) 私生兒のことをいふ。  
 てんけいびよう (天刑病 俗) 癲病のことをいふ。  
 てんじようがくさい (天井が臭い 俗) 鼻穴が上を向いて居るお面相のことをいふ。  
 てんしん (電信 俗) 世間の出来事を近隣に振れ廻る女のことをいふ。金棒引と同じ。  
 てんじん (天神 犯) 詐欺犯行の現場に現はれる偽刑事のことをいふ。  
 てんしんばしら (電信柱 俗) 身長のすぐれて高い人のことをいふ。

てんちようせつ (天長節 俗) 旗日と同じ。  
 てんでこまい (俗) 忙しくつて周章狼狽することをいふ。  
 てんと (天幕 犯) 眞夜中のことをいふ。  
 てんにくち (天に口 俗) 悪事はいつとなしに世間に知れ渡るといふこと。  
 てんびき (天引 俗) 貸金を渡す時先づその額中から一定の金利を差引くことをいふ。  
 てんぶら (天黙羅 俗) メッキのことをいふ。又表面だけ立派で中はごまかしのもののことをいふ。  
 てんほうせん (天保錢 俗) 少し愚鈍の人のこと。又陸軍大學出身の將校のことをいふ。  
 てんま (犯) 腰巾着のことをいふ。

ト

といち (ト一 俗) 女から情夫のことをいふ。トは一は上の字となるからである。  
 どうかつ (動活 犯) 活動寫眞のこと。  
 とうしぎよく (通し玉 花) 藝者や娼妓の玉代を一日中ぶつ通しにつけることをいふ。通し花と同じ。



とうしろう (藤四郎 犯) 眞犯人でないことをいふ。素人の逆さ語。  
 とうじんのねごと (唐人の寝言 俗) 譯のわからないことをいふ意。  
 トウスト (俗) 焼餅焼きのことをいふ。  
 とうて (遠出 花) 藝者が馴染客につれられて遠いところへ遊びに出かけることをいふ。  
 とうまにかつそ (俗) 逃亡することをいふ。原語は朝鮮語である。  
 とうろく (犯) 被害者のことをいふ。  
 どうろく (的) 亭主のことをいふ。女房のことは「ばした」。  
 どくづく (毒吐く 俗) 悪口雑言を放つて人を罵ることをいふ。  
 とこし (床師 花) 好色家のことをいふ。  
 とこばな (床花 花) お客が藝者や娼妓にもてたために床の中でやるチップのことをいふ。  
 どざ (犯) 賭博の手入のことをいふ。  
 どざえもん (土左衛門 俗) 溺死人のことをいふ。  
 とし (犯) 故買者のことをいふ。拘り取った品物を

落し入れる所といふ意味から出た語。  
 どす (犯) 短刀のことをいふ。どすを呑んであるといへば短刀を懐にしてゐるといふこと。  
 とつふう (突風 俗) 敗鐵砲のことをいふ。  
 とてしやん (俗) とてもしやんの略語。非常な美人のことをいふ。  
 どてしやん (俗) 非常に醜い女のことをいふ。  
 どなりや (的) 縁日又は汽車や汽船の中で何冊いくらと書物や雑誌を呼賣する者のことをいふ。  
 とば (犯) 衣類のこと。又「びら」ともいふ。  
 とばおい (犯) 停車場の待合室などで馴々しく話しかけて油断をさせ、その隙に仲間の者に仕事をさせる方法のことをいふ。置引ともいふ。  
 とめそで (留袖 花) 新潟地方で半玉から一本になることをいふ。一本藝者は留袖を着るからである。  
 どや (犯) 宿屋のことを逆にいつた語。  
 とやにつく (花) 娼妓や淫賣婦などが病氣で引き籠ることをいふ。  
 とらしやん (俗) 遠方から見ると美人に見え、近くで見ると醜い女のことをいふ。

とらのこ (虎の子 俗) 秘蔵品のことをいふ。虎が自分の子を可愛がる所から来た語。  
 トリック (犯) 詐術や計略をもつて人を欺瞞することをいふ。  
 とりのみづ (酉の水 俗) 酒のことをいふ。  
 どれあいふうふ (俗) 野合の夫婦のことをいふ。どれあいとは野合とか私通又は姦淫のことをいふ。  
 とろ (俗) 脂身のまぐるずしのことをいふ。  
 どろみづ (泥水 俗) 女郎屋や淫賣屋の如き賤業をすることをいふ。泥水社會とか泥水商賣とかいふ。  
 どんたく (俗) 日曜日や公休日のことをいふ。  
 どんび (鳶 俗) 笛のことをいふ。

ナ

ないしよう (内將 花) 遊廓で女郎屋の女主人公のことをいふ。又その帳場、居間などをいふ。  
 ないむしよう (内務省 俗) 持合せの金のないことをいふ。「今日は相憎内務省さ」など。  
 なか (仲 花) 吉原遊廓のことをいふ。  
 なかあし (中足 俗) 男根のことをいふ。

なかい (犯) 田舎を逆さにいつた語。  
 ながし (流し 犯) 歩き廻ることをいふ。流し圓タクなどといふ。  
 ながしつり (流釣 犯) 縁日の様な人出の多い場所で群衆の中に交つて婦女子を誘惑することをいふ。  
 ながすねひこ (長脛彦 俗) 足の長い男のこと。  
 なかつぎ (中継ぎ 犯) 晝飯のことをいふ。朝食と夕食の間の食事であるところから。  
 なかぬき (中抜 犯) 盗んだ懐中物の中味だけを抜いて空だけを元へ戻して置くことをいふ。  
 ながばこ (長箱 犯) 汽車のことをいふ。  
 ながれし (流れ師 花) 尺八や三味線などを持つて門付をする者のことをいふ。  
 なぎねいり (泣寝入 俗) 不満足ながらそのまま思ひ止つてしまふことをいふ。  
 なげ (犯) 帯のことをいふ。板の間等を忍び歩く時音のしない様に帯を投げて其上を歩くからである。  
 なげだし (投出し 犯) 夜行列車等で乗客の鞆や荷物を窓から投げ出して盗み取る方法をいふ。  
 なざぬこ (俗) 自分の生まない子のことをいふ。



なざぬなか (生ぬ仲 俗) 眞實の親子でないこと。  
 なし (犯) 品の逆さ語。  
 なしのつぶて (梨の礫 俗) 音沙汰のないこと。  
 なしはれ (犯) 品物から犯罪が露顯することをいふ。なしは品の逆語、ばれは現れの略語。  
 なじみ (馴染 花) 遊廓で三回以上同じ遊女の所に遊びに来た客のことをいふ。  
 なしわり (犯) 犯罪の端緒を得るために刑事が古物商や質屋等を調べて歩くことをいふ。  
 なす (茄子 俗) ぼけなすの略語。犯罪語では腰に提げてゐる褌口のことをいふ。  
 なぞをかける (謎をかける 俗) 眞實を押し隠して試みに聞いて見ることはいふ。  
 なだ (灘 俗) 本場の酒のことをいふ。  
 なつのいわし (夏の鰯 俗) 油断の出来ない人のことをいふ。  
 なつのはまぐり (夏の蛤 俗) 満更捨てたものでないといふこと。身がくさつても殻はくさらぬ所から。  
 なつさがり (七つ下り 俗) 染色の褪せたよれよれになつた衣類のことをいふ。

なつどうぐ (七つ道具 俗) お洒落女の化粧道具のことをいふ。  
 なつや (七つ屋 俗) 質屋のことをいふ。  
 なべ (鍋 俗) 女の陰部のことをいふ。  
 なまきさく (生木を割く 俗) 相思相愛の男女の仲を無理無慮に隔離することをいふ。  
 なまぐさ (生臭さ 俗) 不品行、破戒亂行の坊主のことをいふ。  
 なまくら (俗) 切れない刀物のことから轉じて役に立たない人達のことをいふ。  
 なみののはな (波の花 花) 鹽のことをいふ。  
 ならびをつかふ (並びを使ふ 犯) 被害者と並んで歩きながら懐中物を掏り取る方法をいふ。  
 なりひら (業平 俗) 美男子の好色家をいふ。  
 なわのれん (縄暖簾 俗) 下等の飲食店のこと。  
 なわばり (縄張り 俗) 自分の勢力範囲をいふ。  
 なまこます (的) 女を口説くことをいふ。又誘惑することをいふ。  
 なんきんむし (南京虫 犯) 刑事のことをいふ。  
 なんざん (雑産 犯) 目星をつけた人家や倉庫が

忍び入るのに甚だ困難なることをいふ。  
 なんば (軟派 不) 不良少年が情事をもつて婦女子から金品を捲き上げることをいふ。  
 なんばんがつこう (何番學校 俗) 電話交換局のことをいふ。

二

にぎり (握り 不) 不良少年が活動寫眞や電車の中で女の手を握ることをいふ。  
 にぎりぎんたま (握り金玉 俗) 少しの金も持つてゐないことをいふ。  
 にぎりつべ (握り尻 俗) 臭いことをいふ。「彼女は握り尻だよ、注意しろ」などといふ。  
 ニコボン (俗) 愛想を振り蒔く人のことをいふ。  
 にじうやき (二重焼 俗) 再婚の女のことをいふ。見合の寫眞を二重に焼くといふので。  
 にじかい (二次會 俗) 本格的會合が終つてから同好の人だけが第二次の宴を開くこと、又は待合や遊廓へ乗り込むことをいふ。  
 にすん (二寸 犯) 明日のことをいふ。

にぶ (二分 俗) 五十錢のことをいふ。  
 にぶめか (二部妾 俗) 夜と晝と違つた旦那を持つてゐる妾のことをいふ。  
 にほんばし (二本橋 俗) 便所のことをいふ。  
 にほんぼう (二本棒 俗) 女房に甘い亭主のこと。又女にのろい男のことをいふ。  
 にまいめ (二枚目 俗) 女に好かれさうなやさ男をいふ。舊劇で色男役を演る役者が番付の二枚目であるところから。  
 にやん (犯) 屋根傳へに行くことをいふ。  
 によごがしま (女護ヶ島 俗) 女ばかり居る家のことをいふ。  
 によらいはだ (如来肌 俗) 濃やかな感觸を與へる女の肌のことをいふ。床よしと同じ。  
 にわせん (庭錢 花) 藝者に花をやること。  
 にん (的) 巡查のことをいふ。  
 にんぎよくい (人形喰ひ 花) 藝事よりも何よりも容貌の美しい藝者を好む客のことをいふ。  
 にんぎよやのむすめ (人形屋の娘 俗) 無口な又は内氣な娘のことをいふ。



にんびよう(的) 病氣とか又體の勝れないことなどをいふ。

又

ぬかみそ(糠味噌 俗) 女房のことをいふ。  
ぬかる(犯) 油断をしてゐたことをいふ。  
ぬくめどり(俗) 貞女のことをいふ。  
ぬれぎぬ(濡衣 俗) 無實の罪で汚名を着る事、又は事實無根の浮名などをいふ。  
ぬれる(濡れる 花) 男女の情交關係を結ぶことをいふ。

ネ

ねかつく(的) 小言をいふこと。「にん(巡查)がねかつく」などといふ。  
ねがはえる(根が生る 俗) 長座をしてゐて動かぬことをいふ。  
ねがえりそうつ(寝返りを打つ 俗) 心變りがして始めの意志に反くことをいふ。  
ねき(的) 節のことをいふ。

ねこ(猫 俗) 藝者のことをいふ。藝者は猫の皮の張つてある三味線を持つところから。  
ねこかぶり(猫被り 俗) 表面は殊勝らしいが内實は腹が黒かつたり不品行だつたりする者のこと。  
ねこじた(猫舌 俗) 熱い食物の嫌いな人のことをいふ。猫は熱い物は一切食はないからである。  
ねこにかつぶし(猫に鯉節 俗) 若い男の傍へ若い女を置くこと、又酒好きな者の傍へ酒を置くやうなことをいふ。  
ねこのめ(猫の目 俗) 心の變り易い人のことをいふ。猫の目は時刻で變るからである。  
ねこのめ(猫の目 犯) 銀貨のことをいふ。  
ねこぼ(猫糞 俗) 他人の金品を誤魔化して知らぬ顔をして居ることをいふ。  
ねずみなき(鼠啼き 花) 藝者や娼妓や賣笑婦が通行する男子を吸引するやうにチユウくと音をさせることをいふ。  
ねた(犯) 種の逆語で飯のことをいふ。又的屋などは資本や商品などのことをいふ。  
ねち(俗) 熱烈に戀し合ふこと。「あの二人はネ

チね」などといふ。

ねつとうをのます(熱湯を吞ます 俗) 恩義ある人に非常に苦しい思ひをさせることをいふ。  
ねびき(根引き 花) 藝者や娼妓を身請して妻又は妾にすることをいふ。  
ねむり(眠り 犯) 人殺しのことをいふ。殺すこととは眠らすといふ。  
ねりまや(練馬屋 俗) へつぼこ役者、大根役者のことをいふ。馬の脚と同じ。  
ねんぐおさめ(年貢納 俗) 刑務所へ收容されることをいふ。

のす(花) 遊興や飲食に出かけることをいふ。  
のせる(乗せる 俗) 人をおだてたりそよのかすことをいふ。  
のど(咽喉 花) 歌のことをいふ。のどを聞かせるとか又は歌の上手なことをのどがいゝなどといふ。  
のび(犯) しのびの逆語で、忍び師の略。  
のびし(犯) 深夜人家に忍び込んで強盗を働く

者のことをいふ。  
のびた(俗) まゐつた、完全にやられたの意。  
のみふうふ(蛋の夫婦 俗) 夫の方が小さく妻の方が大きい夫婦のことをいふ。  
のむ(呑 犯) 匕首又は他の兇器を懐中に所持してゐることをいふ。  
のりあい(乗合 俗) 一人の女を合意の上で數人の男子が共同して關係することをいふ。

ハ

はいだし(俗) 多少の縁故をもつた家へ金錢の無心に行くことをいふ。  
はいはい(犯) 提灯のことをいふ。  
はいふき(灰吹 俗) 吝嗇家のことをいふ。たまるほどきかないなどといふ。  
はいやくずみ(賣約濟 俗) 婚約が既に調つてゐる女のことをいふ。  
はいやくてき(賣藥的 俗) 口ばかりで、実行力のない人のことをいふ。效能書ばかり立派な賣藥と同じ意。



はいゆう (俳優 犯) 刑事仲間で湯屋の窃盗のこと  
をいふ。  
はがうく (齒が浮く 俗) 情事を挑發するやうな  
事柄のことをいふ。  
はかまやのむすめ (袴屋の娘 俗) 禮儀作法の正  
しい娘のことをいふ。  
はぎ (萩 花) 閑房のことをいふ。  
はきものやのむすめ (履物屋の娘 俗) ゲタく  
と笑ふ意地悪な下品な笑ひ方のことをいふ。  
はく (犯) 飯をばくつくことの略語。  
はくい (俗) 客種のいふこと、大入満員のこと、  
又景氣のいふことなどをいふ。  
はくすい (的) 雪のことをいふ。  
はくだ (犯) 煙草入れのことをいふ。  
はくり (俗) 不良少年や不良少女が物品をかつさ  
らつて行くことをいふ。  
はけしち (化七 花) 化物のやうに厚化粧をした  
女のことをいふ。  
はこ (箱 花) 藝者のこと。藝者を招ぶと三味線  
箱をもつて来る所からいふ。「箱が入る」など。

はこいりむすめ (箱入娘 俗) 外出も自由にさせ  
ず、人と交際もさせず、家に閉ぢ込めて大切に育てて  
居る娘のことをいふ。  
はこし (箱師 犯) 常習的に列車に乗り込んで  
る拘摸のことをいふ。又箱乗りともいふ。  
はこば (的) 巡査派出所のことをいふ。  
はこべ (花) 多くの人の集ることをいふ。  
はざくらげいしや (葉櫻藝者 俗) 年増時代の妖  
艶さも過ぎた藝者のことをいふ。  
はじき (犯) ピストルのことをいふ。  
はしござけ (梯子酒 俗) 甲のパーから乙、丙の  
パーへと酒を飲み廻ることをいふ。  
はした (的) 女房のことをいふ。亭主のこととはど  
うろく。  
はしまめ (箸豆 俗) 身分の賤しい女と通ずるこ  
とをいふ。  
はしやうま (馬車馬 俗) 少しも他見をしないで  
一目散に一つの事に突進することをいふ。  
はしわたし (橋渡 俗) 結婚の媒介又は一般に物  
事の仲介することをいふ。

はずはもの (蓮葉者 俗) 浮氣なお轉婆女のこと  
をいふ。  
はたけ (畑 花) 盗品の出た場所をいふ。  
はたこう (犯) 乞食又は浮浪人などのことをいふ。  
はたび (旗日 俗) 月經のことをいふ。  
はたや (犯) 屑物の立場のことをいふ。  
はち (蜂 犯) 一般の警察官のことをいふ。  
はちのしり (蜂の尻 俗) 丸髷のことをいふ。形  
が似てゐるのでいふ。  
はちぶ (八分 花) 鳥取地方で半玉のことをいふ。  
はつた (俗) 品物の値段を目茶苦茶に廉くするこ  
とをいふ。  
はつたり (的) 的屋仲間で懸引のことをいふ。  
はつたり (犯) 犯罪人を自白させる爲に刑事が詐  
言を使つたり脅迫の態度をとることをいふ。  
はつてんする (發展する 俗) 若い男女がよから  
ぬ方面に遊び廻ることをいふ。放蕩の意。  
はつはな (初花 俗) 初めての月經のことをいふ。  
はつみせ (初店) 遊里に身を沈めた娼妓が初めて  
店に出て客を取ることをいふ。初床又は突出などもいふ。

はつものくい (初物食ひ 俗) 最初の間だけは珍  
らしげに親しくして居るが長續きの出来ない人のこと  
をいふ。  
はな (花 花) 藝者や娼妓に遣るチップのこと。  
はなお (鼻緒 犯) 若い婦人のことをいふ。  
はなぐすり (鼻薬 犯) 賄賂のことをいふ。  
はなげをぬかれる (鼻毛を抜かれる 俗) 女に甘  
く見られることをいふ。  
はなつまみ (鼻摘み 俗) 人から厭悪される者の  
ことをいふ。  
はなにかける (鼻にかける 俗) 自分の少し位の  
才能を自慢にすることをいふ。  
はなをもたせる (花を持せる 俗) 相手の人に面  
目を立てさせることをいふ。  
はなかえり (跳反り 俗) お轉婆娘のことをいふ。  
はなみだ (婆涙 僧) 寺院のことをいふ。婆さ  
んが有難涙をながす所からいふ。  
はぶたいはだ (羽二重肌 俗) 接觸して氣持のい  
い肌の女のことをいふ。鮫肌の反對。  
はぼく (的) 樹木のことをいふ。「こゝからあの



はぼくまでは誰の蠅張りだ」などといふ。

はま(濱 俗) 東京では横濱のこと。大阪では北濱のことをいふ。

はまぐり(蛤 花) 水揚がすんで一本になつた藝者のことをいふ。

はめ(蕨 犯) 指輪のことをいふ。

はやぶさ(隼 犯) 敏捷な刑事のことをいふ。

はやらぬとんや(俗) 少しも似付かないことをいふ。荷着かぬから来た語。

はらがいたむ(腹が痛む 俗) 自己の失費となることをいふ。

はらきり(腹切 犯) 強窃盗が壁を切り破つて忍び込むことをいふ。

はらぐろ(腹黒 俗) 性質の善くない人のことをいふ。

ばらす(犯) 盗品を處分すること。又人を殺すことをいふ。

はらみむすめ(孕み娘 犯) 品物の澤山にある土蔵や倉庫のことをいふ。

ばられた(犯) 逮捕引致されたことをいふ。ひつ

ばられたのひつを略した語。

はりかた(張形 俗) 女子の使用する性具。

はりこみ(張込 犯) 犯人が立寄る様な場所へ警官が待伏せをして居ることをいふ。

はりみせ(張店 花) てらし店と同じ。

はる(張る 俗) 多くの男が一人の女を獲得しようとして競争することをいふ。

ぼれる(犯) 悪事が露見することをいふ。

ぼんきり(犯) 掏摸や賭博などに邪魔をする者のことをいふ。

ぼんこう(犯) 交番所の略。

ぼんこうり(犯) 犯行を被害者に発見された時逆

に喧嘩を吹きかけることをいふ。

はんしよ(犯) 裁判所の略。

はんじよう(半疊 俗) 彌次のことをいふ。

はんしんこう(半身行 俗) 獨身者又は半端者のことをいふ。

はんせんこう(半線香 花) 九州博多邊で半玉のことをいふ。

はんべえ(半兵衛 俗) 殊更に素知らぬ顔をする

ヒ

ことをいふ。知らぬ顔の半兵衛に由来する。

ハンモック(不) 不良少年間で金品をもつて女學生を釣つて戀情關係を結ぶことをいふ。

ひかいち(俗) その方面で最も評判の高い代表的な人のことをいふ。一板看板と同じ意。

ひかげもの(日影者 俗) 妾や私生子のこと。又前科者のこともいふ。

ひがまばらす(犯) 盗人が人家に忍び入る前に大便をすることをいふ。大便をすると氣が落ち着くのと番犬が吠へる前に人糞に誘惑されるのと、無難に仕事が出来るといふまじないのためにする。

ひき(引 俗) 宿引、客引などの略。

びくにや(比丘尼屋 俗) 酌婦や仲居が淫賣をする飲食店のことをいふ。

ひこばらす(犯) 背負つてゐる品物を切りとること。又朋卷を切り取ること。いふ。

ひごろも(犯) 豆腐の油揚のことをいふ。

びた(俗) 旅行のこと。また諸所を徘徊することをいふ。

ふ。旅の逆さ語。

ひだり(左 俗) 酒のことをいふ。盃を左手に持つからである。

ひたりうちわ(左扇團 俗) 働かずに遊んで居て食へる境遇にある者のことをいふ。

ひだりぎょ(左利 俗) 酒飲みの人をいふ。

ひだりづま(左棧 花) 藝者のことをいふ。藝者は歩く時左の棧をとつて歩くからである。

ひだりまえ(左袵 俗) 運勢が良くなく家計が不如意のことをいふ。

ひちてつぼう(肘鐵砲 俗) 男から云ひ寄られたとききつぱりと拒絶することをいふ。

ひつこしによろば(引越女房 俗) 結婚と同時に一家を構へ、近所へは引越して来た若夫婦のやうに見えることをいふ。

びつた(俗) 下足番のことをいふ。

ひつぱり(引張り 俗) 賣春婦のことをいふ。辻君、夜鷹などと同じ。

ひとはだぬぐ(一肌脱ぐ 俗) 意氣役合して事業などに加擔してくれることをいふ。



ひとりやらひ (獨笑ひ 俗) 春畫のことをいふ。  
 ひなし (日済 俗) 高利貸の貸付方の一種で毎日  
 毎日日割で返済することをいふ。  
 ひのきぶたい (榎舞臺 俗) 自分の眞實の技能を  
 十分に發揮するのに都合のよい場所のことをいふ。  
 ひやかし (素見 花) 遊廓に来て娼妓の寫眞だけ  
 を見て登樓せずに歸る客のことをいふ。  
 ひやくい (白衣 犯) 犯した罪の處分が寛なこと  
 をいふ。白衣觀音から出た語。  
 ビヤだる (ビヤ樽 俗) 肥満して居る人のこと。  
 ひやめしくひ (冷飯食 俗) 居候のことをいふ。  
 ビューア (Pur 學) 男女學生間で未だ異性の愛を  
 知らない者のことをいふ。  
 ひようたんなまず (飄筆鯨 俗) 捕へ所のない不  
 得要領な者のことをいふ。  
 びら (犯) 衣類のことをいふ。  
 ひらざしき (平座敷 花) 藝妓屋にて一座敷 (普  
 通二時間) のことをいふ。  
 ひらば (平場 犯) 緣日や夜店などの場所で拘摸  
 を働くことをいふ。「さぶ」と同じ。

ひらばし (平場師 犯) 拘摸仲間で路上で稼ぐ者  
 のことをいふ。  
 ひらび (平日 的) 一定の場所で商賣をする路店  
 商人のことをいふ。  
 びり (俗) 女のことをいふ。「びりこけ」は淫奔  
 な女のことをいふ。  
 ひりようのぶんばい (肥料の分配 學) 學生間で  
 融通の利かぬ人のことをいふ。  
 ひるあんどん (晝行燈 俗) ぼんやりした人又は  
 愚かな人のことをいふ。  
 ひるとんび (晝高 犯) 白晝人家に忍び込んで金  
 品を盗む者のことをいふ。空巢覗いと同一。  
 ひろめ (弘め 犯) 新聞社のことをいふ。  
 ひんかまり (的) 金持のことをいふ。  
 びんつき (俗) 警察のブラツクリストに載つてゐ  
 る注意人物のことをいふ。  
 びんぶ (續夫 花) 娼妓に寄生する男をいふ。  
 びんぼうくじ (貧乏くじ 俗) 自分に不利な役  
 柄や仕事のことをいふ。  
 ひんをおんりよう (緣) 金を借りることをいふ。

びんまきる (俗) 頭 (口錢) を削ることをいふ。  
 びんはりともいふ。

フ

ふうせんむすめ (風船娘 俗) 浮氣な尻輕娘のこ  
 とをいふ。  
 ふくかん (副官 俗) 女房のこと又は會計係のこ  
 とをいふ。  
 ふくすう (複數 俗) 男女二人連のことをいふ。  
 ふくまでん (伏魔殿 俗) 表面は立派に見えても  
 裏面は醜怪な行爲や運動のある場所をいふ。  
 ふくれる (膨れる 俗) 腹を立てることをいふ。  
 ぶげ (犯) 警部の逆語。  
 ぶける (犯) 逃亡することをいふ。  
 ぶしよう (的) 賭博のことをいふ。  
 ぶせる (伏せる 犯) 贓品を隠匿することをいふ。  
 ふたついち (二つ一 花) 名古屋地方で半玉のこ  
 とをいふ。  
 ふだつき (札付 俗) 世間の人々から不良の輩と  
 是認されてゐる人のことをいふ。

ぶたばこ (豚箱 犯) 警察署の留置場のこと。  
 ぶておろし (筆下し 花) 男子が初めて童貞を破  
 ることをいふ。  
 ぶとう (埠頭 俗) 女學校や紡績工場などで便所  
 のことをいふ。  
 ふなまんじゆう (船饅頭 俗) 船中で淫をひさぐ  
 醜業婦のことをいふ。  
 ふねをこぐ (船を漕ぐ 俗) 居眠をすること。  
 ふみだい (踏臺 俗) 自分の慾望を遂げるために  
 他人を悪く利用することをいふ。  
 ふみたおす (踏倒す 俗) 人に損失と迷惑をかけ  
 ることをいふ。  
 ぶらし (的) 看板のことをいふ。人目を引くやう  
 に掲げたもの。  
 ぶりそてこ (振袖妓 花) 新潟地方で半玉のこと  
 をいふ。  
 ぶる (的) 死亡すること。「彼奴がぶるとは思は  
 なかつた」などと。  
 ぶれいこう (無禮講 俗) 上下貴賤の差別をなく  
 して皆一堂に會して平等に飲食することをいふ。



ぶん(聞 俗) 新聞或は新聞社のことをいふ。  
ぶんしん(文身 花) 入墨、刺青などもいふ。  
身體の膚へ針で傷をつけ墨又は朱などで種々な繪を畫いてあるものをいふ。

ふんだん(俗) 澤山、間斷なく、休みなく等の意。

ハ

へいくろう(平九郎 犯) 業務休止又は窃盜常習者が仕事を見合せて居ることをいふ。  
へがわ(犯) 大便所のことをいふ。  
へくない(可内 俗) 女房のことをいふ。  
へけ(俗) 駄目だといふこと。  
へそくり(騎繰 俗) 婦人がひそかに儲かづ、貯へた小使錢のことをいふ。  
へちま(糸瓜 俗) 何の仕事もせずによら／＼と遊んで日を送つて居る意け者のことをいふ。  
べつ(別 花) 藝者が客と情交を結ぶことをいふ。  
べつそう(別荘 犯) 刑務所又は便所のこと。  
べてん(的) 副食物のことをいふ。  
べてん(犯) 人を欺瞞することをいふ。

ベニス(花) 洲崎の遊廓のことをいふ。水郷ベニスのやうな風景があるからである。  
へび(蛇 俗) 執念深い者のことをいふ。  
へみ(的) 木戸錢を拂はないで興行物を觀覽する客のことをいふ。  
へんけい(辨慶 花) 京阪の遊廓で幫間、とりまき、やりてなどのことをいふ。

ホ

ほ(犯) 警部補の略。  
ほいと(布位徒 俗) 乞食のことをいふ。  
ほうかいりんき(法界格氣 花) 岡焼と同じ。  
ほうき(箒 俗) 誰彼の區別なく片端から自由になる女に關係をする男のことをいふ。  
ほうず(坊主 犯) 憐寸のことをいふ。  
ほうだら(棒鱈 俗) 大根役者以下の事をいふ。  
ほうにふる(棒に振る 俗) 一氣に物を無くして仕舞ふことをいふ。  
ほうびき(棒引 俗) 差引勘定を済すことをいふ。又證文を無効にすることもいふ。

ほうろぎ(花) なじみ男又は情夫のことをいふ。  
ほくちん(木賃 犯) 木賃宿のことをいふ。ほくちんホテルの略。

ほくねんじん(俗) ほかんとして馬鹿の様な顔をして居る者のことをいふ。

ほくや(木屋 的) 縁日や夜店などで植木を賣つてゐる者のことをいふ。

ほけなす(犯) 知恵のない間抜けとか薄馬鹿などのことをいふ。略して「なす」ともいふ。

ぼたはたき(犯) 人の袂の中にある品物を掏り取ることをいふ。

ぼち(花) 祝儀、チップのことをいふ。

ほつこくのかみなり(北國の雷 俗) 着の身着のままのことをいふ。北鳴り(着たなり)のしやれ。

ぼつちやん(坊ちゃん 俗) 世間の事情に未だ慣れないうぶな者のことをいふ。

ぼてれん(俗) 妊娠して居る女のことをいふ。  
ほねおしみ(骨惜み 俗) 仕事や労働をすることを厭ふ者のことをいふ。

ほまち(俗) 内職などで得た臨時の収入をいふ。  
ほやく(犯) 品物などを搔浚ふことをいふ。  
ほらがとうげ(洞ヶ峠 俗) 形勢のよい方又は利益の少しでも多い方へつかうと迷ふことをいふ。  
ほりだしもの(掘出物 俗) 價值のある珍らしい品物を採し當たことをいふ。  
ぼる(暴る 俗) 不當の利益を貪ることをいふ。  
ぼろつかい(襤褸買 俗) 女であれば美醜を問はず情を通ずる者のことをいふ。  
ほんじよ(本所 俗) つんぼのことをいふ。  
ほんてら(犯) 闇夜のことをいふ。  
ほんねをはく(本音を吐く 犯) 眞實を自白することをいふ。  
ぼんや(盆屋 花) 京都新京極の裏通りに在る私婚媒介専門の家のことをいふ。

マ

まえかん(前勘 犯) 客が遊興費の勘定を前以て支拂ふことをいふ。  
まえじり(前尻 俗) 女子の陰部のことをいふ。



まがさず (魔が差す 俗) 道徳堅固な人が偶々悪念を起して不品行な行ひをすることをいふ。  
 まきがみ (巻紙 僧) お寺で鯉節のことをいふ。かくと減るところから。  
 まきじた (巻舌 俗) 所謂江戸ツ子辯をいふ。舌を巻くやうにして言語を發するから。べらんめい言葉と同じ。  
 まきもや (的) 巻煙草のことをいふ。  
 まくのうち (幕之内 花) 小さい握り飯のことをいふ。小さいむすび (相撲の小結) から出た語。  
 まくらきん (枕金 花) 藝者や娼妓の玉代のこと。まくらさがし (枕探し 犯) 旅客などの寝てゐる中に所持して居る金品を盗み取ることをいふ。  
 まくらぞうし (枕草紙 俗) 春畫のことをいふ。  
 まくる (花) 人力車のこと。車の逆語。  
 まげる (犯) 質入れすることをいふ。  
 ますはな (増花 花) 情婦がある者に更に情婦が出來た場合、第二の情婦のことをいふ。  
 ませかえす (混返す 俗) 人と人が話して居る中へ入り込んで話を混亂させることをいふ。

まつざわゆき (松澤行 俗) 狂人のことをいふ。松澤村に精神病院があるのでいふ。  
 まつしや (末社 花) 附間のことをいふ。  
 まつちばこ (燐寸箱 犯) 巡査出派所又は交番所のことをいふ。  
 まつちやん (犯) 拘摸のことをいふ。  
 まつば (待場 犯) 非常警戒線のことをいふ。  
 まつをやく (松を焼く 俗) 悋氣をするやうに煽動することをいふ。  
 まな (犯) 現金のことをいふ。なまの逆語。  
 まのふり (犯) 眞面目に素知らぬふりをして罪跡を晦まさうとする舉動のことをいふ。  
 まぶ (間夫 花) 情人のことをいふ。  
 まゝこ (糞子 犯) 住居と離れて居る倉庫や物置のことをいふ。  
 まゆつば (眉唾 俗) 眞實でないらしいこと。注意しないといふ一杯喰はされることをいふ。  
 まるぼう (丸帽 學) 大學生の角帽に對して中學生のことをいふ。  
 まるまげ (丸鬚 犯) 門戸の締り又は戸締りの緩

かな家のことをいふ。

まわし (廻し 花) 娼妓が一夜に幾人もの客をとつて順次にその枕席に侍べることをいふ。  
 まんかんしよく (満艦飾 俗) 盛装をこらした女のことをいふ。  
 まんぢゆう (饅頭 犯) 金時計のことをいふ。  
 まんねんどこ (萬年床 學) 幾日も幾日も敷き放しのまゝにしてある寢床のことをいふ。  
 まんねんむすめ (萬年娘 俗) いつまでたつても娘らしく見える女のことをいふ。  
 まんびぎ (萬引 犯) 物を買ふ様なふりをして商品物を盗むことをいふ。間引から來た語。

ミ

みかけだほし (見掛倒し 俗) 外見は立派に見えても内容のつまらないもののことをいふ。  
 みかづき (三日月 花) 遊女が宵のうちの一寸姿を見せただけで翌朝まで來ぬことをいふ。  
 みからてたさび (身から出た錆 犯) 自分がなした悪い行ひのために自ら苦しみ又は禍や損害などを蒙

ることをいふ。  
 みくだりはん (三行半 俗) 離縁状のことをいふ。  
 みこしませえる (神輿を据る 俗) ドツヒリと尻を落ちつけて動かぬことをいふ。  
 みずてん (不見轉 花) 淫賣藝者のことをいふ。相手を見ずに金さへ出せば轉ぶ所から。  
 みそまつける (味噌をつける 俗) 物事を見苦しく失敗することをいふ。  
 みちくさ (道草 俗) 小僧などが使の途中で足を止めて暇を潰すことをいふ。  
 みづあげ (水揚 花) 若い藝者が初めて客に肌を許すこと、又半玉から一本になることをいふ。  
 みづいらず (水入らず 俗) 親子兄弟又は肉親のものばかりで他人の入らぬことをいふ。  
 みつかぼうず (三日坊主 俗) 物事に飽きばい人のことをいふ。  
 みづくさい (水臭い 俗) 愛情が濃かでないとか又何となく心に隔りのあることをいふ。  
 みづしようばい (水商賣 花) 待合、藝妓屋、料理店のやうな商賣のことをいふ。



みづにながす (水に流す 俗) 従来のいきさつや  
 悪い感情を一掃してしまふことをいふ。  
 みづをさす (俗) 親しい仲を割くためにいろ／＼  
 と離間策を講ずることをいふ。  
 みゝがいたい (耳が痛い 俗) 他人の言ふことが  
 自分の弱點にあたつて聞きづらいことをいふ。  
 みゝより (耳寄り 俗) 兼て望んで居た條件に叶  
 つた事柄があるといふこと。  
 みやがらす (宮島 犯) 神主のことをいふ。  
 みやくがある (脈が有る 俗) 絶望でなくまだ一  
 縷の光明のあることをいふ。

ム

むかて (百足 犯) 汽車のことをいふ。  
 むかて (百足 花) 料理屋やカフェーなどでチツ  
 プを置かずに出て行く客のことをいふ。  
 むくどり (掠鳥 犯) 甘く欺されやすい被害者の  
 ことをいふ。又田舎の素人客のこともいふ。  
 むさし (武蔵 俗) 酒と女、甘いものと辛いもの  
 といふやうに両方が達者な者のことをいふ。

むざしの (武蔵野 花) 大きな盃のことをいふ。  
 むしがつく (虫が付く 俗) 大切に居る娘に  
 情人が出来たことをいふ。  
 むしろしき (筵敷 俗) 茶飲み友達のことをいふ。  
 むすめし (娘師 犯) 土蔵破りのことをいふ。  
 むせんでんしん (無線電信 花) 男女が目と目で  
 合圖をすることをいふ。  
 むねとう (胸當 俗) 職人がかけてゐる腹がけの  
 ことをいふ。  
 むほんしん (謀叛心 俗) 色慾を起すことをいふ。  
 むらさき (紫 花) 醬油のことをいふ。  
 むらさめ (村醒 俗) 上等の酒のこと。村はづれ  
 までいつてから酔がさめるといふ所から。

メ

めいし (名刺 犯) 贋造紙幣のことをいふ。  
 めいど (不) 不良少年の間で龜井戸の私娼窟のこ  
 とをいふ。  
 めう (妙 僧) 坊主仲間であつた若い女のことや情夫の  
 ことをいふ。

モ

めがねやのかんばん (眼鏡屋の看板 俗) 鼻の穴  
 が上向きになつてゐる人のことをいふ。  
 めごろし (目殺し 俗) 美しい女が色眼をつかつ  
 て男子を惱殺することをいふ。  
 めしもり (飯盛 花) 泊つた客に淫を賣る宿屋の  
 女中のことをいふ。  
 めだまをくふ (目玉を喰ふ 俗) 叱られることを  
 いふ。  
 めとめのあいだ (目と目の間 俗) 距離の極めて  
 近いことをいふ。  
 メートルをあげる (俗) 盛んに氣焔を吐くこと。  
 めのくろいあいだ (眼の黒い間 俗) 生きて居る  
 中のことをいふ。死ぬと眼が白くなるから。  
 めんがある (犯) 寫眞を撮られることをいふ。  
 めんがある (面がある 犯) 一面識があることを  
 いふ。見があるもいふ。  
 めんかぶり (面被り 俗) 猫かぶりと同じ。  
 めんぐれ (的) 知人、顔見知りの人などをいふ。  
 めんだい (花) 長くといふ意。寄席の藝人などに  
 「めんだい」で頼むといへば長くやつてくれとの意。

もうじや (亡者 的) 大道易者の前に立つ客のこ  
 とを仲間内でいふ言葉。  
 もうろうぐみ (朦朧組 犯) 表面は極めて正直に  
 見せかけて裏面で悪事を働く輩のことをいふ。  
 もくさつ (目殺) 美人の秋波のことをいふ。  
 もくちゃん (木チャン 犯) 木賃宿又は宿泊所の  
 ことをいふ。ボクチャンと同じ。  
 もぐり (潜り 犯) 看板をかげずに眞正なものと  
 同じ營業行爲をして居る者のことをいふ。  
 もさ (犯) 掏摸のことをいふ。  
 もさこけ (的) 腹の減つてゐることをいふ。  
 モダンガール (もう檀がある 花) もう檀那があ  
 るといふことをもちつていつた語。  
 もてる (持る 俗) パーヤやカフェーや飲食店など  
 の女にチャホヤされることをいふ。  
 ものごろろづく (物心付く 俗) 色氣づくこと。  
 又世態人情を解することをいふ。  
 もみぢ (紅葉 俗) 牛肉のことをいふ。



**もじり** (桃尻 俗) 一ヶ所に長く落ちついて居ることの出来ない者のことをいふ。  
**もらひ** (貰ひ 花) 先客の相手になつてゐる藝者を後の客が所望して招ぶことをいふ。  
**もろ** (犯) 懐中時計などを鎖や紐付のまま、取り取ることはいふ。  
**もろい** (的) 意外に大きな利得をすること。又ぼろいともいふ。  
**もんく** (文句 犯) 反物のことをいふ。  
**もんび** (紋日 花) 遊廓で規定の花代に割増をして仕切りを高くする日のことをいふ。

ヤ

**やおや** (八百屋 俗) どんなことでも引受けてする者のことをいふ。  
**やかけ** (犯) トランクや包を切つて中味を抜き取ることをいふ。  
**やくとく** (役徳 俗) 公職についてゐる爲めに給料以外に種々の収入を得ることをいふ。  
**やし** (野師 的) 縁日又は夜店に出ていかものを

賣つて居る者のことをいふ。  
**やすけ** (彌助 花) 壽司のことをいふ。  
**やだいじん** (矢大臣 俗) 下等の飲食店をいふ。こゝで飲むことを矢大臣をきめこむといふ。  
**やち** (犯) 女の陰部のことをいふ。  
**やちかくし** (犯) 女の腰巻のことをいふ。  
**やちばい** (犯) 娼妓や淫賣婦のことをいふ。  
**やちばらし** (犯) 妓樓へ上り娼妓を相手に遊興に耽けることをいふ。  
**やちや** (犯) 料理店、飲食店又は貸座敷などのことをいふ。  
**やづかい** (矢使 犯) 着物や胴巻を切つて取り取ることはいふ。  
**やとな** (雇女 花) 料理店又は飲食店に雇はれて居て客の酒席に出て、三味線も引き唄もうたひ又床もとる女のことをいふ。  
**やなぎにかせ** (柳に風 俗) 物事にさからはないことをいふ。  
**やにさがる** (脂下る 俗) 長火鉢の向ふに坐つて情人氣取りで得意がつてゐる者のことをいふ。

**やばい** (犯) 危険なことをいふ。夜伽からの轉語。

**やぶいり** (藪入 俗) 商家の舊慣で正月と七月の十六日に雇人一同に暇を興へることをいふ。

**やぶにらみ** (藪白眼 俗) 物を見るのに斜に視て正視することの出来ないものをいふ。

**やぶへび** (藪蛇 俗) 自分から言ひ出してその結果自分の不利になることをいふ。

**やぼ** (野暮 俗) 世態人情を解せぬ無風流の者のことをいふ。

**やま** (山 犯) 犯行のこと。又被害の場所をいふ。

**やまかん** (俗) 詐欺師のこと。表面だけを立派に見せかけて人を欺く所から。

**やまくじら** (山鯨 俗) 野猪の肉のことをいふ。

**やまねこ** (山猫 花) 藝の拙い藝者や又すぐ轉ぶ女のことをいふ。

**やまのかみ** (山神 俗) 女房のことをいふ。

**やまわけ** (山分 俗) 利益を平均に分配することをいふ。  
**やみにさくはな** (闇に咲く花 俗) 私娼のこと。  
**やもめ** (俗) 妻を亡した男、夫を亡した女のことをいふ。

をいふ。やもめくらしとは一人暮のこと。

**やり** (的) 縁日商人仲間などで十の數量をいふ。「俺の店はやり均一だ」といふ。

**やるが** (犯) 居眠やうたゝねのことをいふ。

ユ

**ゆかずごけ** (行かず後家 俗) 一生涯嫁入せずして獨身生活を営む女のことをいふ。

**ゆきだるま** (雪達磨 俗) 藝事は看板だけで淫賣を目的とする藝者のことをいふ。

**ゆな** (湯女 俗) 淫を賣る温泉宿の女のこと。

**ゆびぞくわえる** (指をくはへる 俗) 他人が利益を得たり幸福であるのを羨ましい顔をして空しく見てゐることをいふ。

**ゆもじ** (結文字 俗) 女の腰巻のことをいふ。

**ゆもじにまかれる** (結文字に巻かれる 俗) 女房に制御されてゐる亭主のことをいふ。

ヨ

**よいち** (的) 錢入や財布などのことをいふ。奥市



兵衛の縞の財布から来た語。

ようこう (洋行 犯) 刑務所入りのことをいふ。

ようじ (用事 花) 月経のことをいふ。

ようじ (楊枝 犯) 戸締や箆筒などの錠を外すために用ゐる器具のことをいふ。

ようじんぼう (用心棒 俗) 萬一の場合を慮つて飼はれてゐる腕力の達者な人のことをいふ。

ようちえん (幼稚園 俗) 骨董屋仲間で春畫のことをいふ。

よきちのにようぼう (與吉の女房 俗) あるべきところに毛のない女のことをいふ。

よこぐるま (横車 俗) 是が非でも無理を押し通すことをいふ。

よこぼく (的) 齒ブラシのことをいふ。夜店の齒ブラシやヨコボクやと呼ぶ。

よごろう (四五郎 犯) 飼犬のことをいふ。

よしはらすどめ (吉原雀 花) 吉原遊廓の事情に精通してゐる人のことをいふ。

よせば (犯) 刑務所のことをいふ。

よたか (夜鷹 俗) 淫賣婦のことをいふ。

よつて (四手 犯) 風呂敷のことをいふ。又單に「四つ」ともいふ。

よつばらい (酔拂ひ 俗) 銅錢のことをいふ。

よつめや (四つ目屋 花) 四つ目屋道具の略で、張形のことをいふ。

よね (夜寝 花) 夜一緒に寝る女といふ意から遊女のことをいふ。

よばい (夜匍ひ 俗) 夜中に女の寝所へ忍んで行くことをいふ。

よめ (四目 犯) 男女の密會のことをいふ。

よめしうと (嫁姑 俗) 仲の悪い間柄とか又は意見の合はない人達のことをいふ。

よりひ (的) 天氣のこと。雨降りは「すいばれ」。

ラ

らいとも (俗) ともらいの逆さ語。

らかん (羅漢 俗) 働かない人のことをいふ。

らくだ (駱駝 俗) 夫婦がつれだつて歩くことをいふ。「お樂み」をらくと洒落た言葉。

らしやめん (俗) 外國人の妾になつてゐる日本人

の女のことをいふ。

らつばのみ (喇叭飲み 俗) ビールやサイダなどを瓶の口から直接飲むことをいふ。

らん (俗) なんにも知らない素人のことをいふ。しらんのしを略した語。

リ

りつしんべん (巾 俗) 情婦のことをいふ。情といふ字は巾に青といふ字といふ所から。

りゆうこ (犯) 拘留の逆さ語。

りようとう (兩刀 俗) 酒も飲み菓子も喰ふ辛甘兩方を好む者のことをいふ。

りんご (林檎 不) 婦女子を誘惑することをいふ。

りんらくのおんな (淪落の女 俗) 身を持ち崩した私娼窟の女や街の天使のやうな沈淪零落した女のことをいふ。

レ

れいけつどうぶつ (冷血動物 俗) 慈悲人情もない薄情冷酷な人のことをいふ。

れこ (花) 愛妻、妾、情婦などのことをいふ。

れつ (犯) 共犯人のことをいふ。連の逆さ語。

れんけつ (連結 俗) 愛人同士又は若い夫婦などの二人連のことをいふ。

ロ

ろうずもの (犯) 住所不定のならずものや與太者などのことをいふ。

ろうそく (蠟燭 俗) 手淫のことをいふ。

ろくいちぎんこう (六一銀行 俗) 質屋のことをいふ。六と一で質に通じる所からである。

ろくじ (六字 的) 死んだことをいふ。南無阿彌陀佛の六文字から来た語。

ろくびやくろくごう (六〇六號 花) 花柳病のことをいふ。

ろくま (的) 大道易者のことをいふ。

ろてん (轆轉 俗) 藝人仲間て男根のことをいふ。又るせんともいふ。

ろは (俗) 只のことをいふ。只の字は片カナの口とハと書く所から。



ワ

わかとの (若殿 犯) まだ時間が早いといふ意。  
 又睡眠の浅いこともいふ。  
 わじるし (和印 俗) 春畫のことを骨董屋仲間  
 いふ言葉。  
 わすれがたみ (遺腹子 俗) 遺兒のことをいふ。  
 わすれぐさ (忘草 俗) 煙草のことをいふ。煙草  
 を吸つてゐる間は憂ひを忘れる所から。  
 わたりまつける (渡りを付ける 俗) 物事に關係  
 を結ぶ事、犯罪語では喧嘩を吹きかけることをいふ。

わらじをはく (草鞋を履く 犯) 犯罪者が身の危  
 險を逃れるために旅に出ることをいふ。  
 わらにんぎょう (藁人形 俗) 着飾りは立派でも  
 本像は愚か者といふ意。  
 わりかん (割勘 花) 遊興費や其他總ての失費を  
 頭割りにして出金することをいふ。  
 わりごと (犯) 客を胡魔化して悪い品を賣り付け  
 る露店商人のことをいふ。  
 わるあし (悪足 花) 遊女がためにならない客と  
 わりなき仲になることをいふ。  
 われた (割れた 犯) 犯跡がわかつたといふこと。

昭和八年十二月五日印刷  
 昭和八年十二月十日發行

新聞語辭典 附録

隠語辭典

不許	復製
----	----

編纂者 栗田書店出版部  
 發行者 栗田 確也  
 印刷者 東京市牛込區改代町二四 吉

發行所

東京市神田區表神保町二  
 栗田書店

振替東京一三三四番  
 電話神田二二二六  
 二二二七  
 二二二八  
 二二二九

★隠語辭典のみ分賣は一部定價五拾錢



いさ下込申御でキガハ呈贈本見容内

經濟學博士 阿部賢一 監修	千葉龜雄 編	資源局 編纂	國際聯盟事務局 經濟部並財政部編	商學博士 田中 貢著	商學博士 田中 貢著	商學博士 田中 貢著	商學博士 田中 貢著	明治大學教授 赤神良 謹著	野田 兵一 著	文部省推薦 橋 輝政著	醫學博士 正木不如丘著	醫學博士 服部彌二郎著	前時事新報調查部長 小川 節著	經濟學博士 阿部賢一 編
經濟學博士 阿部賢一 監修	新聞語辭典	米國總動員計畫	金に關する各國法 制表	繭生絲の將來	鐵鋼及機械工業	日本工業政策	社會學入門	新聞經濟面の讀み方	野口英世博士傳	家庭の醫學と治療法	榮養と食餌療法	新政治外交記事の基礎知識	新聞經濟記事の基礎知識	經濟學博士 阿部賢一 編
送料價 十一圓	送料價 一圓六十錢	送料價 一圓五十錢	送料價 六十錢	送料價 二圓五十錢	送料價 三圓五十錢	送料價 三圓四十錢	送料價 二圓四十錢	送料價 一圓五十錢	送料價 一圓五十錢	送料價 一圓五十錢	送料價 一圓五十錢	送料價 三圓五十錢	送料價 二圓四十錢	送料價 二圓五十錢

發行所 東京 神田區 神保町 栗田書店 電話 〇六四七  
三三二二 九九七九



終

